

2019.4



会誌

[64号]

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会

目次

巻頭言	副会長	浅野 正治	2
官公庁等のご挨拶	日本医療情報学会代表理事	大江 和彦	4
	一般財団法人 医療情報システム開発センター 理事長	山本 隆一	6
新任のご挨拶	副会長	前田 達也	8
部会長の ご挨拶・抱負	運営会議 議長	高橋 弘明	9
	総務会 会長	浅野 正治	10
	標準化推進部会 部会長	大沢 博之	11
	医事コンピュータ部会 部会長	船橋 一宏	13
	医療システム部会 部会長	森本 正幸	14
	保健福祉システム部会 部会長	藤岡 宏一郎	15
	事業推進部 部長	福間 衡治	17
海外視察の報告	HIMSS AsiaPac18 視察	中光 敬	18
トピックス	第 24 回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会を開催しました		30
	2018 年度 第 27 回医事コンピュータ部会 業務報告会・特別講演		32
	2018 年度 医療システム部会 業務報告会開催報告		34
	2018 年度 保健福祉システム部会 業務報告会開催報告		36
	2018 年度 標準化推進部会 業務報告会開催報告		38
	HL7 セミナー開催		40
	日本薬剤師会学術大会	田代 哲也	42
部会から	総務会報告	谷口 浩一	44
	普及推進委員会 アンケート結果と考察について		46
	フィンランドにおける医療保険制度・医療 ICT 化視察調査報告		49
	JAHIS シングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン Ver.2.0 のご紹介	山岡 弘明	57
	世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画上の 介護ワンストップサービスへの対応について	川崎 英樹	60
	教育事業「勉強会」について	三田村 一治	64
運営状況報告	理事会／運営会議／総務会／委員派遣ならびに協賛・後援		68
全員メール			80
会員紹介	マネージメントサービス株式会社		83
事務局新人紹介	事務局医事コンピュータ部長	岡 明男	84
編集後記			85

ご挨拶



副会長
日本アイ・ビー・エム(株)

浅野 正治

Asano Masaharu

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）
会員の皆様、平素より当工業会の活動にご理解、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は京都大学特別教授の本庶佑氏が、日本人で5人目となるノーベル医学・生理学賞を受賞され、世界で医療分野における日本の優れた業績に注目が集まりました。また、厚生労働省は2018年を「がんゲノム医療」の元年と位置づけ、これを推進するために全国の拠点施設を拡充する方針です。そのような流れの中、2019年度は当工業会にとっても大きなインパクトのある環境の変化やイベントが目白押しです。まずは4月に発表される新元号への対応です。お客様へ提供している各種ソリューションのみならず、社内システムへの対応も必要であり、混乱なくスムーズに対応することが求められています。10月には消費税増税も予定されているため、同じ年度で2回も大きな改修が必要になります。昨今は「働き方改革」が注目されている中、会員の皆様におかれましても社員のワークロードとの兼ね合いに頭を悩ませているのではないのでしょうか。

一方政府の予算に目を向けますと、2019年度の予算方針は、「人生100年時代を見据えた1億総活躍社会の実現を目指して、『全世代型社会保障の基盤強化』を行う」とされており、厚生労働省も（1）働き方改革・人づくり革命・生産性革命（2）高品質で効率的な保健・医療・介護の提供（3）すべての人が安心して暮らせる社会に向けた福祉等の推進—の3分野を重点事項に位置づけています。中でも（2）に関連して、消費税率の引き上げに相当する一部（2兆円強）を原資に「社会保障の充実」が行われ、「地域医療介護総合確保基金の増額」（国費ベースで医療分689億円、介護分549億円）と並んで、「医療ICT化促進基金（仮称）の創設」（同300億円）が謳われている点がひと際目を引きます。

この「医療ICT化促進基金（仮称）」の対象事業は、（1）オンライン資格確認の導入に向けた医療機関・薬局のシステム整備費（マイナンバーカード等によるオンライン資格確認を円

滑に導入するため、医療機関等での初期導入経費（システム整備・改修等）を補助する）、（2）電子カルテ標準化に向けた医療機関の電子カルテシステム等の導入費（国の指定する標準規格を用いて相互に連携可能な電子カルテシステム等を導入する医療機関での初期導入経費を補助する）—の2つです。電子カルテについては仕様がベンダー（メーカー）によって異なることから、相互連携の為に電子カルテデータのコンバータシステムの導入等が検討されているようです。会員の皆様にとりましても、この部分の扱いについては今後注視されるのではないかと思います。

さて、当工業会は保健、医療、福祉の領域における情報システム産業の健全な発展と、健康で豊かな国民生活の維持向上に貢献することを目的に1994年に設立され、今年で25周年を迎えます。現在では会員は379社（2019年2月末時点）に増え、会員企業の売上高は年間5600億円を超える等、この四半世紀で大きく成長し、日本の保健医療福祉情報システム産業を牽引してきました。

この輝かしい25周年を祝して、現在記念イベントを企画しております。詳細は今後皆様に順次お知らせする予定ですが、イベントに先立ちまして当工業会の主な役職者を対象に、25周年の記念ロゴを右肩に配置した名刺を既に配布しております。医療機関のみならず、中央省庁、自治体、民間施設等、多方面でご活躍いただいている役職者の皆様におかれましては、JAHISの更なる周知とブランドの価値向上を期して、名刺交換の折には是非積極的にご活用いただきたいと思います。

最後になりましたが、JAHIS会員の皆様の益々のご発展を祈念し、JAHISへのご支援、ご協力をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶



日本医療情報学会代表理事

大江 和彦

Ohe Kazuhiko

流動化する医療と社会で思うこと

2016年6月に日本医療情報学会（JAMI）の学会長に就任し、ここでご挨拶して早くも3年任期が来ようとしています。今年6月には次期学会長にバトンタッチとなります。この3年間で医療ICTやAIへの期待はますます大きくなり新しい動きも始まりましたが、一方で医療情報システムの現状不満も少し大きくなって来たのではないかと思います。

新しい動きとしては、いわゆる次世代医療基盤法が2018年に施行され、医療データの二次利用のひとつの姿が法制度面から提示されたと言えます。ご存知のようにこの制度は国が認定した匿名加工事業者に対しては、医療機関が患者さんに丁寧な通知をして断られなければ、個人識別情報を付与したままでも二次利用のために医療情報を提供できるというものです。この法制度にもとづいた社会的な仕組みが定着していくのかどうかはまだわかりませんが、JAHISにとってもJAMIにとっても傍観しているのではなく、積極的に活用していく枠組みであろうと思います。

また、個々の病気の個人毎の違いを精密に分析し、その違いをターゲットにした医療を行うというプレジジョンメディシンは、がんゲノム医療の保険承認が目前にきているように、いよいよ現実化してきました。2018年度にはがんゲノム中核拠点病院が全国で11箇所認定され、これらを拠点にがんゲノム医療が推進されていきます。この医療を受けた患者さんの臨床情報とゲノム情報は国立がん研究センターに設置されたC-CATセンターに標準化されてデータベースとして収集されるという点でも、医療情報システムは大変重要な位置付けになっています。もともとゲノムの個人特性の違いは膨大なデータ蓄積と緻密な分析を元に明らかになるものであり、ここにも医療情報システムの根本的かつ直接的関与が求められています。

一方、人工知能技術の急速な発展は、医療そのものを変えようとしています。医療画像の診断はもとより、臨床経過の予測や医薬品効果評価にも大きな影響を与えつつあります。ビッグデータは「人工知能の燃料」であると言われており、今後の医療改革をドライブする医療人工知能の開発には、質が高く規模の大きな医療データが必要不可欠ですが、それを日常診療で記

録し蓄積しているシステムこそ電子カルテシステムであることに、今一度着目することが大切です。これまでのように、現在の診療だけのための電子カルテではなく、医療を変える研究開発のためのデータを生み出しつづけるための電子カルテとはどういう機能を持つべきかについて、改めて業界全体で考えるべき時期に来ていると言えるでしょう。

これまでの電子カルテシステムの発想では、もはやこうした医療の動きにも医療者の要請にも追従できない状況になりつつあります。

こうした中で、拡大しつつある不満は、昔から言われている診療情報の共有が国全体としてはなかなか進んでいないことです。その矛先が現在の医療情報システムの標準化があまり進んでいないことに向けられがちですが、実は社会制度全体の問題のほうが大きいのはご存知の通りです。個人情報保護、セキュリティ確保、クラウドデータ保管の運用のあり方など、こうした視点での課題を解決しない限り、システム技術やデータ標準化だけでは解決しないテーマです。しかし、それでは現在の電子カルテが施設を超えてデータを標準化して出せるのかと言われれば、不十分なところは山のようにあり、それに目をつぶってはいは確かに進展はないでしょう。やはり、ここは徹底的に自助努力もしなければならぬと思います。

よく言われることですが、高齢社会を迎えるとともにICT社会はさらに変化をもち、これから医療も医療機関で医療を受ける時代から、モバイル医療や遠隔医療に代表されるようにサービス拠点が地理的・時間的に流動化する時代を迎えています。そして健康管理と医療サービスの境界が曖昧になり、未病という言葉に示されるように健康と病気に境界もグレーになりつつあります。あらゆる事物とサービスが従来なじんで来たような境界明瞭な定義により既定されるのではなく、連続的に変化するものとしてとらえなければならないことが増えてきました。こうした時代では、誰が何をすべきなのか、組織の役割は何なのか、を明確に線を引けなくなってきました。JAHISは何をして何をしないでよいのか、JAMIのような学術団体の役割は何か、といった境界を議論することは無意味になってきました。ただ言えることは、一組織だけで解決できることは何一つないということでしょう。

JAHISという国内の医療情報システムを主導する企業の集まりが、JAMIや多くの医学系学会と情報交換をしつつ、共通する社会課題を一つ一つ産業界視点で解決する道筋を作っていただきたいと思います。

ご挨拶



一般財団法人
医療情報システム開発センター
理事長

山本 隆一
Yamamoto Ryuichi

データ駆動型社会と医療健康情報システム

保健医療福祉情報システム工業会の皆様、一般財団法人医療情報システム開発センターの理事長を務めております山本隆一です。どうぞよろしくお願いいたします。

医療分野へのIT導入は保健医療福祉情報システム工業会会員各社の努力もあり、医事システム・レセコン、部門システム、オーダエントリシステム、EMR、EHRと順調に発展を遂げてきました。また厚生労働省は個人中心の健康医療情報の管理と活用を主体とするPEOPLEという概念を提唱し、保険局の高度化推進室や医政局の医療情報技術推進室にとどまっていた医療のIT関連の施策を、データヘルス推進本部を立ち上げほぼ全省的に繰り広げようとしています。厚生労働省だけに留まらず、内閣官房を含む多くの府省で関連施策を進めています。以前に貴誌の巻頭言で、医療情報のIT化の推進から医療情報の利活用の飛躍的な拡大へと時代が変わりつつあることを書かせていただきましたが、ほんの数年で施策の本流になりつつあるように思います。

さらに近年はSociety5.0が未来投資会議等で提唱され、データ駆動型社会の検討が本格化しています。Society5.0の本質はCyber-Physical System (CPS)、つまりIoT技術で生じる大量のITデータをリアルタイムで分析し、実社会に還元して生活を改善するもので、自動運転は（それが実現するかどうかは別として）その象徴的なソリューションと言えます。医療健康分野でもセンサー技術の発展はめざましく、医療機関での診察や入院から生活の中での情報収集と分析、さらには適切なアドバイスや投薬や医療機器の自動制御が現実的な開発課題となりつつあります。先日糖尿病関連の国際会議に出席しましたが、Flush Glucose MonitorやContinuous Glucose Monitorと自動調整Insulin Pumpが機器展示の大部分を占めており、それらがクラウドベースのアプリが組み込まれたスマートフォンでコントロールされていました。Evidence Based Medicine (EBM) の個別的な拡張とカジュアル化とも言えます。その基本的な技術要素はIoT、Big Data、AIと言えるでしょう。従来のEBMはReal World Dataの分析ではなく、適切にコントロールされたQuality Dataの分析でなければ信頼されませんで

したが、カジュアルなEBMはQualityに多少目を瞑っても、細かなフィードバックを繰り返すことで正しい方向性を保つことを目指しており、生体がそれぞれかなり異なる個性を持つ医療や健康の分野では、ある意味正しい割り切りかも知れません。もちろんコントロールされたQuality DataによるEBMの重要性に変わりはなく、参照知としての重要性は増していると思われますが、CPSの医療健康分野への導入はますます進んでいくと思われます。

もちろん問題点もたくさんあります。センサー技術は進歩を待てば良いとしても、セキュリティとプライバシー保護は喫緊の課題です。また厳密なInteroperabilityを目指す標準化とは少し異なるPortabilityを強く意識した標準化もCPSの健全な発展のためには必須と考えられます。Deep Neural Network（DNN）を主体とするAI技術も、確かに画像認識等では成果が上がっていますが、単純なパターン認識だけで医療や健康の課題に対応できるわけではなく、さらなる発展が必要と思われます。

電子カルテを中心とする医療情報システムもゆっくりかも知れませんが、パラダイムシフトが起こることが予想されます。CPSによる医療は受診や入院という、言わばコントロールされた環境での医療から生活に入り込んだ医療に変わっていくでしょう。しかし現在の医療情報システムは診察室や病棟、手術室での利用を前提としており、セキュリティポリシーもありますが、外部の情報を広く取り込んでいくコンセプトとはほど遠いものがあります。センサー情報は患者の身体から持続的に発生し、医療機関の管理する医療情報システムに収集することは現実的ではなく、セキュリティの観点からも、プライバシー保護の観点からも無理があります。患者等のコントロール権を実現するPHRとの有機的な連携は必須と言えます。CPUやメモリと言ったリソースもOn Demandで制約なく利用できることが必要になるでしょう。PHRとのインターフェイスやリソースの柔軟性を考えるとクラウド環境への移行は避けられないと思われます。

JAHISも、またおよばずながらMEDISも医療情報の利活用の重要性や拡大発展は十分認識しており、そのための標準化や安全管理の確立に、他の多くの団体等と協力して邁進してきたわけですが、さらに要求は厳しくなってきたと言えます。要求が厳しくなる、と言う言い方は少しおとなし過ぎる言い方かも知れません。これからのパラダイムシフトに対応するためには原点に戻って考え直す必要があると思います。

一般財団法人医療情報システム開発センターとしては、これまで標準化の推進と安全管理およびプライバシー保護の支援に取り組んできましたが、今後は保健医療福祉情報システム工業会ともこれまで以上に強く連携し、パラダイムシフトを見越した基本的な共通認識の醸成にも努力をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

副会長
富士通(株)

前田 達也 Maeda Tatsuya



一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）会員の皆様、平素より当工業会の活動にご理解並びにご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年末より副会長を務めさせていただくことになりました富士通の前田と申します。この場をお借りして一言ご挨拶をさせていただきます。

現在、我が国の65歳以上の人口割合は、2025年に約30%、2060年には約40%に達すると予想されており、着実に超高齢化社会に突入しています。そのため、少子高齢化や社会保障費の拡大等の厳しい保険財政環境の中で、国民皆保険制度を維持しながら質の高いヘルスケアサービスの提供と国民の健康寿命の延伸が期待されています。

2017年5月に「世界最先端IT国家創造・官民データ活用推進基本計画」、2018年6月には「世界最先端デジタル国家創造・官民データ活用推進基本計画」が閣議決定され、国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できる社会が実現することを目指しています。また、2018年に閣議決定された「未来投資戦略2018」では、ビックデータ等のフル活用により質の高いヘルスケアサービスを効率的に提供し、医療・介護サービスの生産性の向上と国民の健康寿命の延伸を目指すとされております。

さらに、厚生労働省が2018年7月に公表した「データヘルス改革 工程表」では、2020年度に向けて以下の8つのサービスの提供を目指して、その具体化を進めるとしています。

- データを中心に、収集、分析、活用によるサービス：「データヘルス分析関連サービス」、「科学的介護データ提供」、「乳幼児期・学童期の健康情報」、「健康スコアリング」
- ネットワークの活用による実現するサービス：「保健医療記録共有」、「救急時医療情報共有」
- データの利活用とマッチングによる新サービス：「がんゲノム」、「AI」

これらのサービスを実現する為に、ビックデータ活用は最重要な課題であり、健康・医療・介護業界において、膨大な健康・医療・介護データを収集、整理、分析する為には、業界全体が一つになって取り組むことが不可欠であると今改めて痛感をしております。

JAHISは、保健医療福祉情報システム産業の健全な発展と健康で豊かな国民生活の維持向上に貢献することを目的とし、保健医療福祉情報システムに関する標準化の推進、技術の向上、品質および安全性の確保を図ることを推進し、多くの実績を残してきております。

質の高いヘルスケアサービスを効率的に提供し、医療・介護サービスの生産性の向上と国民の健康寿命の延伸の実現において、ますますJAHISへの期待は高まるものと考えます。微力ではございますがJAHISの運営に尽力してまいりますので、引き続き会員の皆様には、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

運営会議 議長
(株)NTTデータ

高橋 弘明 Takahashi Hiroaki



会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの事業運営にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今年度は、平成の時代が幕を閉じ、そして新たな時代の幕明けとなりますが、JAHISにとっても創立25周年を迎える節目の年となります。多くの先輩方にJAHIS活動を支えていただき、また会員皆様のご尽力により25周年を迎えることができますこと、また我が国の医療等分野におけるICT化の進展にJAHISが貢献できましたこと、あらためて御礼申し上げます。

さて、我が国は国民皆保険やフリーアクセスなど社会保障制度の充実と、質の高い医療サービスの提供により長寿社会を実現しておりますが、一方で医療・介護の公的費用の拡大や、疾病構造の変化など、いくつかの課題も抱えているのはご存知の通りかと思います。それら課題への対応にあたり、「改革」というキーワードを用いて様々な検討や施策が進められている状況であります。「未来投資戦略2018」では、技術革新を最大限に活用し個人や患者本位の新しい「健康・医療・介護システム」の確立を目指しています。また2018年10月の未来投資会議では、全世代型社会保障へ向けた改革として、2040年を展望した議論が始まっています。厚生労働省では、データヘルス改革の旗のもと、健康・医療・介護データを連結したデータプラットフォームを2020年度に本格稼働させる目標を定め、推進が図られているところであります。このような状況の中、各施策の推進にあたっては、あらためて申すまでもなくICTが大変重要な要素となっており、そしてそのヘルスケアICTを担うJAHISへの期待もますます高まるものと考えています。

ただ、JAHISへの期待は待っているだけで高まるものではありません。今までの会員皆様のJAHIS活動を評価いただき現在のJAHISの位置づけがあるように、現在そして今後の積極的な委員会活動ならびに、对外活動を行うことによって信頼を得て、それが期待に変わるものと考えています。

そのためにも、社会的課題に対してヘルスケアICTがどのような貢献ができるのか、またどのように他関係機関と協調して進めていったらよいのか、JAHIS全体としてもしっかりと議論をしていきたいと思っています。この議論を疎かにすると、合理的無知の世界に陥り、そして受け身的対応となり、最後はJAHISの存在価値が問われることにもなりかねないと思っています。現在、JAHIS内では新しいビジョン策定に向け検討を進めていますが、ヘルスケアICTが社会的課題の解決に対しどのように貢献できるのか、あらためて考えていきます。そして取りまとめたものをどのように発信していくのかという観点についても、あわせて検討を進めていきたいと思っています。

またJAHISは2010年に一般社団法人となり、事業推進体制や法令順守について議論を重ね、着実に実行してきました。そういった運営基盤を維持しながら、今後も会員皆様がより活発にJAHIS活動を進めていただくためには何が必要か、皆様からの声を拾いながら活動環境も整えていきたいと思っています。

最後に、社会的課題解決に向けてはICTの力が必要ではありますが、工業会だけで推し進めることは困難であります。行政や他団体などの関係機関と今まで以上に連携して取り組み、我が国の医療ICTの発展ならび会員の皆様の事業に寄与できるよう活動して参りたいと思いますので、引き続き会員の皆様のご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

総務会 会長
(日本アイ・ビー・エム(株))

浅野 正治 Asano Masaharu



会員の皆様におかれましては、平素より、JAHIS活動にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、日本は超高齢化社会を迎え、ここ数年のJAHIS新規会員の傾向は従来の医事会計や電子カルテを中心とした企業から、健診・介護・健康等の事業を営む企業へと変化してきております。

ここ数年のJAHISの会員数の伸びが頭打ちになる中、更なる会員数の増加や既存会員の退会の低減に向けた課題解決、並びに会員向けのサービスを充実すべく、総務会としまして、今年度は以下を施策の柱とすることでJAHISの発展に寄与したいと考えております。

1) 会員に関する事項

永続的な運営基盤を確固たるものにする為、新規会員を増やし、退会する会員を減らす為の課題を洗い出し、対応策を検討した上で、必要な改善を行う。

2) 組織運営に関する事項

総務会が主体となって運営する各種イベントにおいて、参加者に対し効果的でインパクトのある内容を企画・立案し、円滑なる実行を目指す。また、法改正等に伴う対応については事務局と連携し、組織運営の見直しや必要な整備を図る。

3) 法人としての事項

一般社団法人に関する法律に照らし合わせ、会員活動の基本となる規則・規程類の随時見直しを行い、継続して透明性・公平性の確保に努め、社会から一層の信頼を獲得するよう努める。

特に今年度に行う新たな施策をご紹介しますと、

2)「組織運営に関わる事項」におきまして、JAHISのさらなるステータス向上の施策を検討します。

具体的には、JAHISホームページのアクセスを分析し、閲覧数、閲覧の内外比率、滞在時間、他の「動態」を分析することで、ブランドイメージ向上の対応策の検討に役立てます。

また、広報活動を強化し、(1) 政府系委員会の参加状況公表や発言内容等の発信、(2) 地方自治体や関係団体との関係に関する情報発信、(3) ホームページの「お知らせ」、「ニュース」等の発信回数の増加、(4) 政界や省庁幹部へのロビー活動の促進、等ステータス向上の為の施策を検討します。

これらの活動を通して、総務会としては今後も会員の皆様に、広くJAHISの価値のご提供ができればと考えております。

JAHIS会員各位の皆様の益々のご活躍を祈念し、新年度のご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

標準化推進部会 部会長
(キャノンメディカルシステムズ株)

大沢 博之 Oosawa Hiroyuki



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より標準化推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。標準化推進部会の部会長として、新年度にあたり抱負を述べさせていただきます。

標準化推進部会は、ヘルスケアICTの実現に向け行政・学会・関連団体等と連携を図り、いろんな意味でのシステムとシステムをつなげる標準化を推進しており、“医療ICT”，“IoT”，“WoT”と叫ばれる中、システムとシステムをつなげる機会がますます増えております。また、地域連携に加えて、AIやビッグデータの利活用という意味で、データをつなげることも重要になっており、つなげる標準化は極めて重要な役割を果たしております。

データをつなげるということでは、ブロックチェーンという新しいデータ保管のデータベース技術を医療データに活用することも世界では始まっております。いずれJAHISとして医療ブロックチェーンの標準化に取り組む必要が出てくるかもしれません。

標準化は歴史的には、紀元前2500年頃、エジプトのピラミッドで計量法や作業手順という標準化が使われ、紀元前200年頃に中国の始皇帝が度量衡という長さ大きさ重さの単位の標準を決め、1800年代では産業革命でネジという互換性の標準が生まれ大量生産が可能になりました。また、第1次世界大戦、第2次世界大戦を通じて世界的な平和な社会の建設が望まれ、ボーダーレスによって国際標準が求められ、1906年にIECが、1947年にISOが設立されております。IEC、ISOには本部会の国際標準化委員会が積極的に出席し活発な活動をしております。標準化の歴史は言い換えると何かと何かをつなげる歴史であり、人類は標準化によって社会的無駄を排除しながら効率よく発展して来たのです。

標準化の目的は、品質、効率、安全、安心を高レベルに確保することで、現在はこれに加えプライバシー、セキュリティの確保も求められており、これには本部会の安全性・品質企画委員会が取組んでいます。

標準化は縛るものではなく、良くするためのものです。個人的な意見ではありますが、標準化はイギリスの哲学者ジェレミ・ベンサムが言う「最大多数の最大幸福」を実現するものであると思いますし、JAHIS会員企業の「最大多数の最大幸福」を実現するものと信じております。

良い標準は使われ残ります。良いことは残り悪いことは排除されることは世の中の道理です。そのため、本部会の国内標準化委員会は、良い標準を策定し推進するため、JAHIS会員企業向けのJAHIS標準を制定したり、厚労省標準規格の元となるHELICS指針標準規格の策定を行っています。

標準化のメリットは、技術力の向上、品質の向上、業務の非属人化による経営資源の有効活用、技術力のPR等がありますが、折角の標準も作るだけではそのメリットは活かされません。本部会の普及推進委員会がJAHIS会員企業の皆様にもっと活用してもらえるように標準化への理解を深める活動を

行っています。また、政府関係者、エンドユーザにも標準化を理解してもらえるように学会等で発表しPR活動を行っています。

厚労省では、“2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進”しており、“ICT・AI等を活用した医療・介護のパラダイムシフトの実現を目指し、インフラの整備”を推進すると言っております。

このような取組みに対し、JAHISは業界のさらなる活性化を図り、会員の皆様が安心して安全に活用できる標準化を目指していききたいと思います。今年度も、地域包括ケアの高まり、「病院完結型」から「地域完結型」の医療への転換、医療・介護・健康の連携政策等の世の中の動向に合わせて、ヘルスケアITによる連携実現が重要であると考え、これを、効率的・効果的に実現するために、以下の4項目について重点的に取組み、標準化の推進を図ってまいります。

- （1）行政・学会・関連団体等との連携
- （2）薬機法の運用について、患者安全と利便性に寄与するため関連機関との協力・連携
- （3）海外標準と日本の要件・状況との整合性を確保するために海外標準化団体との調整や日本からの標準化推進
- （4）標準化を担う人材の確保・育成

今後とも、標準化の推進と普及活動を通じて、本会のますますの発展と、JAHIS会員の皆様への貢献に努力してまいりますので、何卒、会員の皆様のご支援の程、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

医事コンピュータ部会 部会長
(PHC 株)

船橋 一宏 Funabashi Kazuhiro



昨年10月より医事コンピュータ部会の部会長を拝命しております、PHC株式会社の船橋でございます。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より医事コンピュータ部会の運営に絶大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年度は、2019年5月に予定されている新元号への対応、同10月に予定されている消費税引き上げに伴う点数薬価改定等への対応、及び2020年度の診療報酬改定への対応を控えており、厚生労働省や審査支払機関等の関係機関とこれまで以上に密に連携・協力し、正確な情報を早期に収集して、会員の皆様への情報発信に努めて参りたいと考えております。

さらに、国のICT戦略への対応として、「未来投資戦略2018－Society5.0の実現に向けた改革－」におけるICT化の検討状況や、厚生労働省が推進する電子処方箋の実証事業、被保険者番号の個人単位化も含めた医療保険のオンライン資格確認の進捗状況等に着目し、関係案件に関する検討と関連機関・団体への意見具申、及び会員の皆様への情報展開を行っていく所存です。

医事コンピュータ部会は、石井、菊地、森の3名の副部会長のもと、①医科システム委員会、②歯科システム委員会、③調剤システム委員会、④介護システム委員会、⑤マスタ委員会、⑥電子レセプト委員会、⑦DPC委員会の7つの委員会で構成されております。各委員会の委員長・副委員長、各種分科会のリーダ・サブリーダと活発な活動を展開するとともに、JAHISの他部会・委員会とも連携・協力し、目まぐるしく変化する外部環境に対応しながら、業務の健全な運営と発展を目指したいと考えております。

2019年度の事業活動といたしましては、以下の3項目に重点的に取り組んで参る所存です。

- 1) 国のICT戦略の中で、ICT活用の目的を明確にしながら関係機関と連携を取り、課題解決に取り組んでいく。
- 2) 医療／介護保険制度改正や診療／介護報酬改定等のスムーズな対応が実行できるよう、関係機関・団体との連携を強化する。
- 3) 成熟した医事コンピュータビジネスの活性化を図るために、新規市場動向や先進ICT適用状況等を調査し、行政等関係機関に提言を行う。また、会員のビジネス機会拡大に努めるとともに、情報発信、会員サービスの向上に努める。

今後も会員の皆様の発展に寄与できるよう、医事コンピュータ部会の各委員会が一丸となって変化への適応に取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

医療システム部会 部会長
(富士通株)

森本 正幸 Morimoto Tadayuki



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より医療システム部会の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。医療システム部会の部会長として、新年度にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

昨年度よりオンライン診療の解禁、次世代医療基盤法の施行、医療等分野における識別子の仕組みが取り纏められ、そして、全国的な保健医療情報ネットワークが2020年度から稼働を目指すとされています。本ネットワークでは、マイナポータルによる本人への医療情報の提供、健康・医療・介護のビックデータを個人のヒストリーとして連結・分析できる解析基盤などの稼働が予定されています。また、2019年度予算におきましては、データヘルス改革の推進として、NDBや介護DBといった研究用各種DB等を連結したビックデータの利活用、医療情報化支援基金を創設しオンライン資格確認の導入、電子カルテの標準化に向けた支援などが行われます。さらに、特に医師に代表される医療従事者の働き方改革が叫ばれており、ICT化に対する期待は益々拡大しているといった状況でございます。

また、ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテストが2016年から毎年開催され「生涯現役社会」の実現を目指すにあたり、健康寿命の延伸に寄与するヘルスケアソリューションを提供するベンチャー企業に対して国が支援を行っており、ヘルスケア業界の拡大に向け、国を挙げた取り組みが進められています。

一方、サイバー被害は今や人類最大の被害ともなっており、サイバーセキュリティ対策の強化が益々重要となっております。

このような中、医療システム部会では、電子カルテ委員会、検査システム委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会を中心として「患者安全への寄与と医療への貢献を目的とした情報活用基盤の拡大」を推進して参ります。中でも特に、今後医療現場での活用が期待されるAIを含む電子カルテデータ利活用に向けた検討、クリニカルパス学会、日本医療情報学会と連携しクリニカルパスの標準化やデータ分析等の検討、DICOM、IHE International等の国際標準化活動への参画による情報収集と対応強化、MEDIS-DC看護実践用語標準マスタ普及促進、物流業務・トレーサビリティ確立の標準化・効率化、リハビリ等に関連する医療介護連携の標準化推進、リモートサービスセキュリティガイドラインのISO規格改定、HPKI電子署名規格Ver2.0のISO化、HPKIカード、ノード認証・機器認証等のセキュアトークンに関する検討、電子カルテの監査証跡に関するISO規格改定に向けた取り組みを行うとともに、これらに関連するJAHIS標準類の策定・改定を実施して参ります。

さらに、データの利活用・標準化に向けた新たな取り組みといたしまして、学会、標準化団体等と協調しHL7 FHIRなどについても検討を進めて参ります。

先にも述べましたが、ようやく医療等IDの方針が示され、医療専用全国ネットワークが構築され、個人への医療サービス提供に向けたデータ利活用、さらには、ビックデータの利活用が進んで参ります。

医療システム部会といたしましては、当部会だけでなく、JAHIS、さらには、省庁、関連団体とも連携し、ベクトルを合わせ、一丸となって取り組んで参りたいと思います。

会員企業の皆様におかれましては、今後とも引き続きまして更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

保健福祉システム部会 部会長
(株)日立製作所)

藤岡 宏一郎 Fujioka Koichiro



JAHIS会員の皆様には、平素より保健福祉システム部会活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。部会長の藤岡でございます。新年度にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

ご存知のように、第4次安倍改造内閣発足に伴い、2018年10月に開催された「未来投資会議（第19回、第20回）」では成長戦略の重点分野として、以下の3つの柱の具体化を図る方向性（案）が示されています。

- ・ Society 5.0の実現（第4次産業革命）
- ・ 全世代型社会保障への改革
- ・ 地方施策の強化

その中で、次世代ヘルスケア分野としては2つのゴールが掲げられています。

◆「人生100年健康年齢」

現役時代から健康状態を把握、健康維持や疾病・介護予防に取り組める仕組みにより、老化・生活習慣病に対し、予防・生活管理、モニタリングまで含めトータルなソリューションを提供。（保険者へのインセンティブ、高齢者の保健事業と介護予防の一体化、健康経営へのシグナル）

◆「いつでもどこでもケア」

データに基づき、オンライン医療やIoTによる見守りサービスを在宅で受けられる（オンラインでの診療の保険適用・服薬指導）

2つのゴールの実現と、喫緊の消費税引上げに伴う対応に向けて、JAHISでは各部会および他部門とも連携した活動が活発に行われており、当部会としても各委員会がその一翼を担い、関係機関と協力しながら推進していくことが今後さらに期待されています。

以上のような背景を受け、当部会では2019年度、以下の事業方針のもと取り組んで参ります。

- (1) 現在検討が進められている被保険者証の個人単位化、オンライン資格確認等を活用した新たな保健医療サービスについて、関係機関と連携を図り、情報システム分野の専門家として効率的なシステム構想を提言していく。
- (2) 個人・患者単位で最適な健康管理・診療・ケアを提供するための基盤としての「全国保健医療情報ネットワーク」を活用した地域の保健・医療・福祉・介護の連携、施設間や多職種間での連携データの標準化・普及、PHR等の実現に向け、関係省庁事業への参加や行政機関、関係団体への

積極的な提言を実施し、業界のビジネスの創出を図る。

- (3) 保健医療ビッグデータ活用推進に向け、引き続き関係機関・団体と連携し検討会等に委員を派遣する等、各種健診関連システムの普及やデータヘルス計画の効果的な実施に資する活動・提言を実施する。またヘルスソフトウェア、ビッグデータ分析、民間PHR事業者の活用等に関連した調査や提言を行い、健康情報活用ビジネスの創出・拡大を図る。
- (4) 子供たちの幼稚園、保育所、認定こども園の費用の無償化に加え、児童手当、児童扶養手当、障害児福祉サービス等の子供のための教育給付について、関係府省、地方自治体と連携を図り、情報システム分野の専門家として積極的に提言を行う。
- (5) JAHIS他部門の委員会等との連携による積極的な情報収集に基づく会員への情報提供、関係省庁・関係機関・学会への積極的提言を実施する。

これまでも上述のような事業方針に対しては、各ステークホルダーのご協力を得て、標準化やネットワークの普及等に地道に取り組んで参りました。今年度も増え続ける社会保障費、医療介護・子育てを担う人材不足と言った大きな課題について、システム分野の専門家としての提言を実施して参ります。また、業界団体として、税金や社会保障費から対価を頂くだけでなく、関連するステークホルダーとともに、新しいビジネスを創出していくことに引き続き挑戦して参ります。最後になりますが、保健福祉システム部会、及びJAHISの他の部会の熱い会員(有志)の皆様のご支援とご協力の程、引き続きよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

事業推進部 部長
(日本電気株)

福間 衡治 Fukuma Koji



事業推進部 部長を務めておりますNECの福間です。JAHIS会員の皆様には、事業推進部の運営に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて事業推進部の主たる活動は、教育事業と展示博覧会対応であり、4つの委員会と1つのWGで運営しております。各々の取り組みにつきご紹介します。

1. 事業企画委員会

出版事業として、書籍「医療情報システム入門」を2020年1月に改版する予定です。また、各業界団体との協力体制を深めていくとともに、会員に広く影響する事案に対して新規セミナーや教育コースの企画・導入を実施してまいります。

2. 教育事業委員会

定款的に実施している教育コース（医療情報システム入門コース、介護請求システム入門コースなど）の開催を行うとともに、旬な話題を情報提供する勉強会および要員育成のための勉強会の企画・実行を行ないます。各講師との情報交換や会員各社からのアンケートを行い教育事業へ活用してまいります。

3. ホスピタルショウ委員会

毎年7月に開催される国際モダンホスピタルショウの対応を行います。2020東京オリンピックパラリンピックの影響があり、2019年度は東京ビックサイトに新設される南展示棟での開催となり、来場者の導線が大きく変更となりますが、主催者の円滑な運営に協力してまいります。

4. 日薬展示委員会

これも例年の行事ですが日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示の出展とりまとめを行います。2019年は山口、2020年は北海道、2021年は福岡での開催が決まっております。出展とりまとめを受託できるよう、早期に各都道府県薬剤師会への働きかけを行なってまいります。

5. 展示博覧会検討WG

リードエグジビジョンジャパン社主催の通称メディカルジャパンは、東京・大阪の年2回の開催となるなど集客力あるイベントとなっています。このように多様化するヘルスケア関連イベントに関してJAHIS会員にとってメリットがあるかどうか検討の上、対応を検討してまいります。

最後になりますが、事業推進部は「工業会参加価値の追求」を基本方針とし、JAHIS各部会の横断的な協力を得ながら活動を推進してまいります。皆様のご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

HIMSS AsiaPac18視察

戦略企画部長
(株)NTTデータ

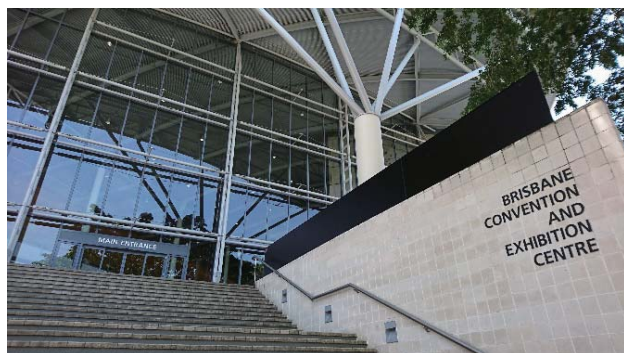
中光 敬 Nakamitsu Takashi



1 はじめに

2018年11月4日から7日までの4日間、オーストラリアのブリスベンでHIMSS AsiaPac18が開催されました。HIMSS (Healthcare Information and Management Systems Society) は、「医療向上のため医療ITの最適普及をグローバルにリードする」ことを目的として1961年に米国で設立された非営利団体で、7万人以上の個人会員、600以上の企業、450以上の非営利団体が所属しています。毎年春に米国で年次総会および医療IT関連で世界最大規模の講演会・教育セッション・展示会の総合イベントを開催しています。その他の地域でも世界各地でイベントを開催しており、医療ITの最新技術やソリューション、ネットワーキング機会を提供しています。HIMSS AsiaPacは2007年にシンガポールで初めて開催され、今回で12回目の開催となりました。オーストラリアでの開催は今回で2回目、シンガポールでは5回開催されていますが、これまで日本での開催はありません。JAHISではHIMSS AsiaPacを定点観測しており、2018年も1名参加してきました。

ブリスベンは、オーストラリアではシドニー、メルボルンに次ぐ第三の都市であり、印象としてはコンパクトにまとまっていて便利が良く、また、とてもきれいな街並みでした。会場はBrisbane Convention & Exhibition Centre (BCEC)で、市中心部のシティから市内を蛇行するブリスベン川にかかるヴィクトリア橋を渡って徒歩で約20分の場所にありました。南半球のオーストラリアの11月初旬でしたので、日本では5月初旬のゴールデンウィークあたりの気候を想像していましたが、20分ほど歩いて会場に到着すると汗だくになるような陽気でした。



BCECの入り口。オーストラリアはイギリス式表記なんですね。



ヴィクトリア橋。BCEC側からシティ方面の景観です。

全4日間の日程のうち、初日の11/5はプレカンファレンスとして「HIMSS CXO Summit」及び「IHE AsiaPac Summit」、11/6-7の2日間はメインカンファレンス、11/8はポストカンファレンスとして恒例のHospital Toursが開催されました。今年の参加者は25か国1,200人超と昨年の約1,000人から回復し、ここ数年の減少傾向からは歯止めがかかった形となりました。

2 IHE AsiaPac Summit

プレカンファレンスはIHE AsiaPac Summitの方に参加し、参加者は全体で20名程度でした。IHE-AustraliaのPeter MacIsaac博士のオープニング基調講演に始まり、Australian Digital Health AgencyのGarth MacDonald氏からはオーストラリア政府が全国民を対象に提供を始めた「My Health Record」の紹介（「My Health Record」はExhibitionにも出展していましたので、そちらで詳述します。）、アジア開発銀行のDonna Medeiros氏からは、Emerging AsiaとしてASEAN諸国＋インド＋中国の高い経済成長力やDigital Healthを進めていくために各国政府の政策に加えて投資資金やパートナーが必要である旨の説明がありました。

また、各国の「IHE Update」は韓国と日本の2か国からの報告があり、日本の状況はIHE-Jの中野信一さんから2018年10月のIHE-Jコネクタソンの実施状況を中心にご報告がありました。会場から「日本でのFHIRの利用状況は？」といった質問もありましたが、現状では実装が進んでいる状況にない旨のご回答がありました。



その他ではFHIRやブロックチェーン等に関するセッションがありましたが、私自身が注目していますブロックチェーンに関する内容を報告します。「Blockchain Technology - Common Use-Cases」と題して、イタリアTiani “Spirit” GmbHのMassimiliano Masi博士によるプレゼンテーションがありました（イタリアからのTV会議形式）。ブロックチェーンとは、ご存知のとおり非中央集権的な分散型の台帳技術であり、耐改ざん性に優れ、分散型であることからゼロダウン・タイムというメリットがあります。Bit Coinなど金融分野での活用が進んでいますが、他の領域においても様々な実証等が行われており、ヘルスケア分野でもその応用可能性が話題となっています。しかしながら、Masi博士によれば、ヘルスケア領域のITサービスにはフィットしないのではないかとのことでした。その理由としては、まずパフォーマンス速度の問題があること、ブロックチェーン上に医療データを蓄積するのはオープンにアクセス可能となるものであり（暗号化による対処はそのアルゴリズムが変更されることを考えると適していない）、また、医療の領域で最も重要な相互運用性の観点での対応もなされていない、というものです。ブロックチェーンはセキュリティに優れており大量のデータを管理する側から見れ

ば魅力的な技術であるといった反論もありましたが、Snowflake Computing Asia Pacific and JapanのPeter O'Connor氏からは「ブロックチェーンは現在の技術をすべて置き換えるものではなく補強するものであり、たとえば医療保険の領域や治験における効率的な患者マッチングなどでの活用可能性はあるだろう」という意見でした。個人的には、ブロックチェーンの活用可能性を過大といっても良いほどに強調するような記事を見ることが多い中でMasi博士のプレゼンテーション内容は意外でしたが、いくつかの質問に対して「ポテンシャルはある」という回答が何度かあり、現状での評価としてはこれが最もしっくりくるという感覚です。

3 メインカンファレンス

HIMSS AsiaPac18のテーマは「Healthcare Anytime, Anywhere」で、「Connect」「Consumer-Partnership」「Health 2.0」「Data」「Sustainability」「IMHIT (International Military Health IT)」の6つのトラックでセッションが開催されました。



メインカンファレンスのオープニングセレモニーはアボリジニの伝統文化を伝えるパフォーマンス。



5人のパネリストから「クリスマスプレゼントで欲しいもの」の発表がありました。

メインカンファレンスはアボリジニの伝統文化を伝えるパフォーマンスで開幕した後、最初の基調講演は「Leadership Voices: Healthcare Anytime, Anywhere」と題し、HIMSS CCO (Chief Clinical Officer)のCharles Alessi博士をモデレータとして5人のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。各パネリストから世界各国におけるヘルスケアの課題、現在の最新状況、将来可能となること等について報告されましたが、開催国オーストラリアのeHealth Queensland CEO/CIOのRichard Ashby博士からは、クイーンズランド州におけるデジタルヘルスの取り組みについて説明がありました。曰く、「先進国における病院のコストの7～8%は予測可能で避けうる有害事象により発生しているものであり、それらは、ヘルスケアのデジタル化によって解決できる。たとえば、デジタル化により入院期間を6～9%削減できるが、これをクイーンズランド州にあてはめるとすると、700床の病院を1つ減らすことができる。ただ、オーストラリアで本当に重要なのは、都市から数百キロ離れた地方の人たちに対して、たとえば、摂食障害に効果のあるようなモバイルアプリを提供するといったような取り組みである」ということでした。このセッションの最後にAlessi博士から各パネリストに対して「いまクリスマスプレゼントがもらえるとしたら何が欲しいか？」と問いかけたところ、究極のCDSツール、患者の急変を予測するAI、デジタル化への投資効果のエビデンスといった回答がありました。

6つのトラックの中では、「Data Track」においてビッグデータやAIといったキーワードでのセッションが多く目立ったところでした。なお、本稿の最後にセッションの一覧を記載しています。

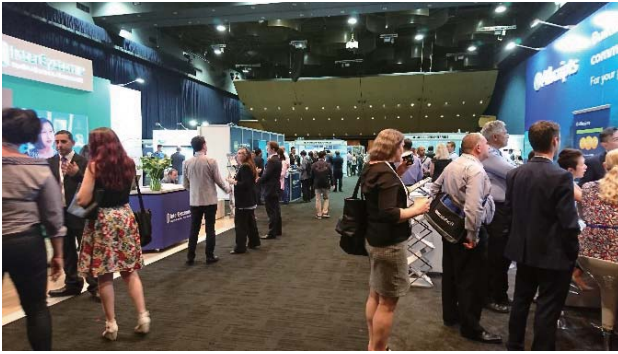
4 企業展示

メインカンファレンス開催中の2日間は、企業展示も併設されていました。まず広さ的な観点ですが、感覚的には日本で実施されている国際モダンホスピタルショウの1/4程度といったところでしょうか。出展企業・団体数は44で、Cerner、InterSystemsなどの欧米勢がほとんどの中で台湾や韓国の企業の出展もありましたが、残念ながら日本からの出展はありませんでした。また、企業のほか政府系機関の出展もあり、Australian Digital Health Agencyが「My Health Record」の展示をしていましたので、こちらを簡単に報告します。なお、Australian Digital Health Agencyは、オーストラリア政府が出資するAgencyだということで、日本でいう外局にあたる組織のようです。



Supporting OrganisationとしてJAHISのクレジットあり。
日本からの展示は残念ながらゼロ。

「My Health Record」はオーストラリアの国家的な電子医療情報管理システムであり、オンラインで各個人の診療情報、予防接種の記録、薬のアレルギーや副作用情報、画像診断結果などがセキュアに閲覧できる24時間365日アクセス可能なサービスであり、2018年の終わりにはすべてのオーストラリア人が提供を受けられるようになるとのことでした。もちろん、と言ってよいのかわかりませんが、サービス提供を受けないという選択もできます。各個人はオーストラリア政府が提供するサービスである「myGov」（※日本でいうマイナポータルに相当するもの）のアカウントからアクセスすることができますし、医療関係者は医療機関のシステムを通じて患者の情報にアクセスすることができるため、診療の参考とすることができます。アクセス権は各人がドキュメントごとに設定でき、すべてのアクセスは記録され、医療機関等がアクセスした場合はその旨をeメールで受け取るような設定も可能です。日本で同様の、たとえば薬の処方歴を管理できるようなサービスがあるかと聞かれましたので、薬局などが提供するスマホアプリのようなもの（電子お薬手帳）はあるものの、全国的に全国民が利用できるような医療情報管理システムはまだ存在しないと答えました。ちょっと悔しいですね。データはクラウド上で管理されるということですので、具体的にはどこで管理されているのか尋ねてみたところ、シドニーにあるデータセンターで一括管理しているとのことでした。



展示会場の模様。



場内から HIMSS TV の中継。

また、メインカンファレンスの中でも紹介するセッションがあったのですが、HIMSS AsiaPac Innovations Challengeとしてヘルスケア関係のスタートアップ企業（“ファイナリスト”5社）が提供する新しいサービスを展示するブース「Innovation Showcase」もあり、デモが行われていました。

5 Hospital Tours

ポストカンファレンスとして恒例のHospital Toursは、Lady Cilento Children's Hospital(LCCH)とPrincess Alexandra Hospitalの2つが設定されていましたが、私はLCCHの方に参加してきました。LCCHは2014年に設立されたクイーンズランド州立の小児科専門病院で、12階建ての施設、360床のクイーンズランド州最大の小児科病院です。クイーンズランド州政府機関であるChildren's Health Queensland (CHQ)が進めるieMR (integrated electronic medical record)を導入しており、その最新の取り組み状況についてNursing DirectorのJudy Grantさんから説明があった後、院内の見学を行いました。



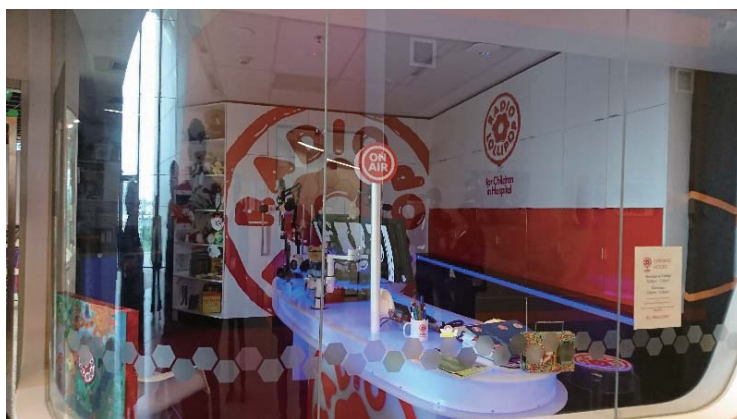
ieMRは、医療に関するあらゆる情報を電子的に統合された医療記録(ieMR)へ変換し、その医療記録をクイーンズランド州の全域で参照・活用できるようにする取り組みです。LCCHが設立された2014年11月時点では、診療記録、成長の記録、アレルギー情報、その他の情報はスキャンして取り込むことも含めて電子化し、一括して集中管理するものでした。その後、2016年10月にはオーダーエントリーシステムとレポートシステムを導入、2017年10月には外来患者の予約システムであるEnterprise Scheduling Management (ESM)を導入しました。2018年4月には、新しいシステム“Advanced”を導入し、投薬情報、ケアプラン、外科的処置、救急情報、麻酔、バイタル情報等のあらゆる情報を統合しようというものです。これら患者のリアルタイム情報を医療チームに提供し、また各

分野の専門医にも見てもらうことで最高の医療を提供できるようにする、というものです。

また、ieMRの導入にあたっては、膨大な数のワークフローを検討・整理し、医療従事者がこれまで行ってきた紙での仕事のやり方を一変させ、新しい方法に適応する必要があります。そのために、システム稼働前に十分な時間を取り92%の医療従事者が事前にトレーニングを受けたということでした。

そのほか、Follow Me Desktop (FMD)という機能も紹介され、病棟でのデモも見せてもらいました。ベッドサイドその他のすぐ近くにおいてある端末にカードを挿すだけで、自分の必要とする患者のファイルや情報が一覧として操作できるという説明でしたが、いわゆるシンクライアントのようなものですね。すべての看護師が利用でき、端末はすべての診療室、処置室、ナースステーション等に設置されているとのこと。

Judyさんからの説明の後には、病棟の見学を行いました。先に説明のあったFMDについて、実際にカードを挿して画面表示をして見せてもらいました。カードを挿してから画面が出てくるまでは数秒間ととても短く（※ただし、一日の最初にログインする際には多少時間がかかるらしいです！）、端末はたしかにあちこちで見ることができました（患者さんが入院しているエリアのため写真撮影はNGでした）。



子供たちのためのプレイルーム「Starlight」。ゲームセンターや工作室、院内放送のミニFM局など！
外出できない子供たちのために、外の景色を眺められるように屋外へ出ることができる。

その後、医療情報システムとは関係ないと思いますが、子供たちや家族のために様々な工夫・配慮をしているということで、LCCHの取り組みを紹介してもらいました。家族も子供のケアに関わるチームの一員であり、治療・ケアの方針の意思決定に参加することが重要という、すなわちfamily-centred care (FCC)を実現すべく、子供たちだけでなく家族も病院で過ごしやすくするための工夫がなされて

いました。子供たちのプレイルームのほか、食事をするスペースも日本の病院では見られないようなおしゃれな雰囲気でした。



おしゃれな食事スペース！



6 おわりに

プレカンファレンスからポストカンファレンスまで4日間のHIMSS AsiaPac18でしたが、全日程において日本からのスピーカーは先に触れたIHE-Jの中野さん1名のみであり、企業展示はゼロでした。日本人の参加者もほとんど見かけることはなく、日本人としては少々さみしい気持ちになりました。こういった場で日本の存在感がないということもそうですが、医療情報分野でもガラパゴス化しているのではないかと不安にも感じます。日本でも最近になってHL7 FHIRの話題が盛んになっておりますし、今後は国際的な活動も活発化していくことを期待しています。

なお、HIMSS AsiaPac19は2019年10月にタイのバンコクで開催予定となっています。

(Appendix) Pre-Conference IHE AsiaPac Summit Program

Monday, 5 November 2018

08:00 - 09:00	Registration and Coffee
09:00 - 09:20	Opening Keynote Dr Peter MacIsaac, Secretary, IHE (Australia) Deployment Group
09:20 - 09:40	VIP Keynote Speech: Building My Health Record and Introduction of the Global Digital Health Partnership Garth MacDonald, General Manager of the Technology Delivery and Projects Branch, Australian Digital Health Agency, Australia
09:40 - 10:00	VIP Keynote Speech: The Importance of eHealth Sustainability in Emerging Countries in Asia Donna Medeiros, Digital Health Architect, Policy Advisor and Consultant, Asian Development Bank
10:00 - 10:30	Coffee Break Thematic Block: "Blueprints and New Technologies"
10:30 - 11:00	Blueprints: Which Architecture for Which Use-Case? Jürgen Brandstätter, Member IHE International Board, Co-Chair, IHE Europe, Austria
11:00 - 11:30	SMART on FHIR: Writing Applications for Clinical Data Mark Braunstein, Professor of Practice, School of Interactive Computing Georgia Institute of Technology, US
11:30 - 12:00	Blockchain Technology - Common Use-Cases Dr. Massimiliano Masi, IT Security Architect, Tiani "Spirit" GmbH, Italy
12:00 - 12:15	Q & A and Discussion with the Floor
12:15 - 13:15	Networking Lunch Thematic Block: "Joint Initiative of IHE and HL7 on FHIR"
13:15 - 13:45	Gemini Global, a Joint Initiative of IHE and HL7 to Advance Use of FHIR for Interoperability Jürgen Brandstätter, Member IHE International Board, Co-Chair, IHE Europe, Austria
13:45 - 14:05	Q & A and Discussion with the Floor Thematic Block: "National updates"
14:05 - 14:25	IHE Update Out of: Korea Sungkee Lee, IHE Korea
14:25 - 14:45	IHE Update Out of: Japan Shinichi Nakano, Member, Testing and Tools Committee and Co-Chairman, Cardiology Technical Committee, IHE Japan
14:45 - 15:05	Requirements for State-Wide Image Exchange Dr Lawrence Sim, Director of Radiology Informatics, Queensland Health, Australia
15:05 - 15:25	Coffee Break
15:25 - 15:40	Radiology in the Community Setting: eReferral and Access to Key Historical Images Mark Nevin, Senior Executive Officer, Faculties, Strategy and Advocacy, Faculty of Clinical Radiology and Faculty of Radiation Oncology, The Royal Australian and New Zealand College of Radiologists, Australia
15:40 - 16:00	Extending MyHR - Imaging, Referral, Notifications, Allergies Chris Lindrop, IHE International liaison, Australia
16:00 - 16:20	Implementing Device EMR Connectivity - A Technical and Business Perspective Patricia Liebke, Chief Clinical Information Officer, Uniting Care Hospital Group, Australia
16:20 - 16:40	Connecting Care, a Local HIE in Bristol, England - is England Moving from Centralized to a Federated Approach? Andy Kinnear, Director of Digital Transformation, NHS South West, UK Jocelyn Palmer, Connecting Care Program Manager, NHS South West, UK
16:40 - 17:00	Q & A and Discussion with the Floor
17:00 - 17:15	Closing Dr Peter MacIsaac, Secretary, IHE (Australia) Deployment Group

(Appendix) Main-Conference Program

Day 1 – 6 November 2018			
07:15 – 08:45	CXO Breakfast		
08:00 – 09:00	Registration and Coffee		
09:00 – 09:10	Opening Ceremony		
09:10 – 09:20	Opening Addresses 1. Hal Wolf, President & CEO, HIMSS, USA (5 min) 2. Dr Richard Ashby, CEO & CIO, eHealth Queensland, Australia (5 min)		
09:20 – 10:20	Keynote Plenary 1: Panel Discussion - Leadership Voices: Healthcare Anytime, Anywhere 1. Hal Wolf, President & CEO, HIMSS, USA 2. Dr Richard Ashby, CEO & CIO, eHealth Queensland, Australia 3. Dr. Jenny Shao, Health Information System Director, United Family Healthcare (UFH), Chair, HIMSS Asia Pacific Governing Council 4. Tim Kelsey, CEO, Australian Digital Health Agency, Australia 5. Moderator- Dr. Charles Alessi, Chief Clinical Officer, HIMSS		
10:20 – 10:45	Dedicated Exhibition Hall Time		
10:45 – 11:30	Keynote Plenary 2: The Secrets to Successful EHR Implementation - It's Much More than Just the Software Shantaram (Shaun) Rangappa MD, MSHA, Deloitte Consulting, Greater Washington DC, USA (Sponsored by Deloitte)		
11:30 – 12:15	Keynote Plenary 3: Is Your Healthcare Ecosystem Cyber Resilient Stephen Burmester, Industry Security Leader, IBM Australia (Sponsored by IBM)		
12:15 – 13:45	Networking Lunch and Series of sponsored luncheons		
	CXO Luncheon (Sponsored by Deloitte)	CXO Luncheon (Sponsored by Abbott)	
13:45 – 17:30	Track 1 – Connect	Track 2 – Consumer-Partnership	Track 3 – Health 2.0 Showcase
13:45 – 14:30	Track Keynote CT1 – Defining and Benchmarking Healthcare Information Networks Brendan Lovelock (Sponsored by CISCO)	Track Keynote CP1 – Consumer Panel: Healthcare Transparency and Co-Creation with Consumers 1. Renza Scibilia, Manager, Type 1 Diabetes and Consumer Voice 2. Leanne Wells, CEO, Consumer Health Forum, AUS 3. Moderator: Dr. Charles Alessi, Chief Clinical Officer, HIMSS	13:45 – 14:00 Track Keynote on Health 2.0 Technologies Pascal Lardier, Vice President, International Talent & Content, HIMSS International
14:30 – 15:00	CT2 – Driving Digital Transformation in Healthcare Delivery Amidst a Fragmented Health IT Landscape 1. Lauren Bui, Vice President, Data Management and Analytics (CTO), CHRISTUS Health, USA 2. John McDaniel, EVP, Innovation & Technology Solutions, The HCI Group, USA 3. IVarun Anand, Co-Founder, MphRx, USA (Sponsored by HCigroup)	CP2 – Better Connections, Bigger Outcomes Erik Wagner, Director, Healthcare Industry Go To Market, Salesforce (Sponsored by Salesforce)	14:00 – 15:30 Panel: Health 2.0 Solutions for Chronic Disease Management and Elderly Care 1. Moderator: Karolina Korth, Founder, Health 2.0 Kuala Lumpur Chapter 2. Moderator: Yuuri Yeda, M.D, Director, Health 2.0 Asia - Japan (MedPeer Inc.) 3. 4. Renza Scibilia, Manager, Type 1 Diabetes and Consumer Voice 5. Joseph Mocanu, Managing Director, Verge Capital Management, Singapore
15:00 – 15:30	CT3 – Connected Medical Device Security Bob Zemke, Director of Healthcare Solutions, Extreme Network (Sponsored by Extreme Network)	CP3 – Patient Engagement in the Era of Digital Disruption Anthony Farah, Digital Strategy Leader, IBM Australia (Sponsored by IBM)	
15:30 – 16:00	Coffee Break		

16:00 – 16:30	CT4 – Digital Medicine: Practicing Comprehensive Evidence Based Care in the Digital Age Dr. John Oommen, President, Indian Association for Medical Informatics, India	CP4 – Beyond 100 Connected Clinics Christian Besler, Chief Digital Officer, Ayala Healthcare Holdings, Inc	15:30 – 16:30 Break
16:30 – 17:00	CT5 – Blueprints and Architectures for Meaningful, Sustainable and Large-Scale HIE Jürgen Brandstatter, Co-Chair, IHE Europe, Austria	CP5 – Smart Healthcare in Smart City Prof Cholatip Pongskul, Associate Dean for Information Technology, Faculty of Medicine, Khon Kaen University, Thailand	16:30 – 17:30 HIMSS AsiaPac Innovations Challenge
17:00 – 17:30	CT6 – Role of EMR-Integrated 3D Printing Workflow in Improving Patient Care Zafar Iqbal, Manager – Radiology Software Applications, Sidra Medicine, Qatar	CP6 – Back to the Future	
17:30 – 18:00	Closing Keynote Plenary 4: “Why we need Blockchain for Precision Health?” Johan Sellström, Co-Founder, Carechain, Sweden		
18:00 – 18:30	Pre Awards Dinner Reception		
18:30 onwards	HIMSS AsiaPac Awards Dinner The HIMSS Asia Pacific Awards Dinner promises a night of fun and celebration. At this exclusive event, APAC’s Health Information and Technology community will recognize individuals and organizations across numerous award categories, including 1. EMRAM Award 2. Best Paper Submission Award 3. Vendors Choice: Healthcare IT Leader of the Year 4. Innovations Award 5. Best Health IT Solutions Award 6. Most Popular Exhibitor Award		

Day 2 – 7 November 2018			
07:15 – 08:45	CXO Breakfast (Sponsored by Nutanix)		
08:00 – 09:00	Registration and Coffee		
09:00 – 10:00	Keynote Plenary 5: Health Information Exchange in Military Health Systems to Support Care Coordination Within and Across Borders Moderator: Dr. Charles Alessi, Chief Clinical Officer, HIMSS International 1. Air Vice-Marshall Alastair N C Reid, Defence Medical Director, HQ Surgeon General, Ministry of Defence, United Kingdom 2. RADM (Dr) Tang Kong Choong, Chief of Medical Corps, Singapore Armed Forces 3. Air Vice Marshal (Dr) Tracy Smart AM, Surgeon General, Australian Defence Force 4. Moderator: Dr. Charles Alessi, Chief Clinical Officer, HIMSS		
10:00 – 10:45	Keynote Plenary 6: From Monologue to Dialogue: How National Geographic Deepened Engagement with Consumers and Became the World's Number One Social Media Brand Marcus East, Chief Technology Officer, National Geographic, USA		
10:45 – 11:15	Coffee Break and Exhibition time		
11:15 – 12:00	Keynote Plenary 7: Innovation, Adopted Neil Patel, Executive Vice President, Healthbox		
12:00 – 13:00	Networking Lunch and Series of Sponsored luncheons		
13:00 – 17:15	Track 1 – Data	Track 2 - Sustainability	Track 3 – IMHIT Conference
13:00 – 13:45	Track Keynote D1 – Symbiosis - not Skynet: Why AI will Make Healthcare (and Us) More Human Prashant Natarajan, Principal of Analytics & AI, Deloitte Consulting, Australia (Sponsored by Deloitte)	Track Keynote S1 – H-Supply Information Maturity Management (H-SIMM) Model: Supply chain for Quality, Safety and Sustainability Dr Anne Snowdon, Professor of Strategy & Entrepreneurship, Academic Chair of World Health Innovation Network (WIN); Scientific Director and CEO, Supply Chain Advancement Network (SCAN Health), Canada	13:00 – 13:10 Opening Address for IMHIT Conference Air Vice Marshal (Dr) Tracy Smart AM, Commander Joint Health & Surgeon General, Australian Defence Force
13:45– 14:15	D2 – SNOMED CT: The global language of healthcare Don Sweete, Chief Executive Officer, SNOMED International, London (Sponsored by SNOMED)	S2 – A Better Way to Manage 9 Million Pages of Paper Sallyanne Wissmann, Director of Information Management, Mater Health (Sponsored by Hyland)	13:10 – 14:15 USA: Benchmarks for HIT Progress, Benefit Realization and Lessons Learned from MHS Genesis John Daniels, Global Vice President, HIMSS Analytics, USA
14:15– 14:45	D3 – Improving Cancer Treatment with Genomics and AI Nicholas Therkelsen-Terry, CEO, Max Kelsen, Australia (Sponsored by IBM)	S3 - Benefits of a HIMSS Stage 6 EMR Implementation @ Royal Children's Hospital Melbourne 1. Jane Miller, COO 2. Lauren Andrew, EMR Optimisation Manager Royal Children's Hospital Melbourne, Australia	14:15 – 14:50 The Australian Defence Force Digital Health Strategy Air Vice Marshal (Dr) Tracy Smart AM, Commander Joint Health & Surgeon General, Australian Defence Force
14:45 – 15:15	Coffee Break		14:50 – 15:25 Design & Implementation of Singapore Armed Forces' EMR System and Integration with the National Health IT Landscape RADM Dr Tang Kong Choong, Chief of Medical Corps, Singapore Armed Forces
15:15 – 15:45	D4 – 'AI' want it now – Harnessing high-quality data to improve patient outcomes Tim Morris, Product & Partnership Director, EMEALA, APAC, Elsevier (Sponsored by Elsevier)	S4 - The Electronic Health Record in Austria (ELGA) – What's Next? Dr Alexander Kollmann, Global eHealth expert and former Head of Innovation and Program Management, Austrian Electronic Health Record (ELGA) (Sponsored by Siemens)	15:25 – 15:50 Coffee Break

15:45 – 16:15	D5 – Cognitive Communications – the next step in the digital transformation Brad Ledger, Account Director, Queensland Health, Alcatel Lucent (Sponsored by Alcatel Lucent)	S5 – King's College Hospital EHR: Journey of a Lifetime Richard Yorke, Head of EPR, King's College Hospital NHS Foundation Trust (Sponsored by Allscripts)	15:50 – 16:20 Medical Information Challenges and Opportunities in UK Defence Medical Services - A Programme Director's Thoughts Air Vice-Marshal Alastair N C Reid, Defence Medical Director, HQ Surgeon General, Ministry of Defence, United Kingdom
16:15 – 16:45	D6 – Retrieval Medicine: What has big data ever done for us? Dr. Will Ibbotson, Medical Officer, Royal Flying Doctors Service, Australia	S6 – Establishing Sustainable National Health Information Systems: Lessons from Partnerships in Vietnam Donna Medeiros, Digital Health Architect, Policy Advisor and Consultant, Asian Development Bank, USA	16:20 – 16:40 (Flexible) Panel Discussion/Q&A Moderator: Dr. Charles Alessi, Chief Clinical Officer, HIMSS International
16:45 – 17:15	Closing Keynote Plenary: The Push for Internet Hospitals in China Jilan Liu, MD, MHA Vice President, HIMSS Greater China		

第24回 JAHIS 講演会&賀詞交換会を開催しました

1月16日（水）にイイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区内幸町）にて「第24回 JAHIS 講演会&賀詞交換会」を開催しました。当日は総勢224名の会員、来賓、関係者が集まり、年初に相応しい力強いスタートを切りました。

第一部のJAHIS講演会では、高橋運営会議議長より「2019年の年頭にあって」と題した講演をし、昨年の振り返り、市場の動向、更にJAHISの今年の活動について紹介しました。続く特別講演ではTVでもご活躍の人間性脳科学研究所所長 澤口俊之様より「人工知能と脳科学」というテーマでご講演をいただきました。JAHIS会員の事業領域にも関連の深い分野ということで、参加者からも大変好評をいただきました。

第二部の2019年賀詞交換会では、岩本会長の開会挨拶に続き、関係各省・関係団体より年始のご挨拶をいただきました。新規入会会員のご紹介コーナーでは、出席された3社より自社のご紹介及び抱負を語っていただきました。

第1部 JAHIS 講演会

- | | | | |
|-----------|-----------------|--------------|---------|
| (1) 16:00 | 開会挨拶 | 総務会会長 | 浅野 正治 |
| (2) 16:05 | 「2019年の年頭にあって」 | 運営会議議長 | 高橋 弘明 |
| (3) 16:20 | 特別講演 「人工知能と脳科学」 | 人間性脳科学研究所 所長 | 澤口 俊之 様 |
| (4) 17:45 | 閉会挨拶 | 総務会副会長 | 柴 健一郎 |

第2部 賀詞交換会

- | | | | |
|-----------|------------|-------------------------|----------|
| (1) 18:00 | 開会挨拶 | JAHIS 会長 | 岩本 敏男 |
| (2) 18:05 | 来賓ご挨拶 | 経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課課長 | 西川 和見 様 |
| | | 総務省情報流通行政局情報流通高度化推進室室長 | 飯村 由香理 様 |
| (3) 18:25 | 新規入会会員 ご紹介 | 株式会社テクノウェア | |
| | | 株式会社メドレー | |
| | | マネージメントサービス株式会社 | |
| (4) 18:30 | 乾杯 | 一般財団法人医療情報システム開発センター理事長 | 山本 隆一 様 |
| (5) 19:30 | 中締め | 事務局長 | 鈴木 義規 |
| (6) 19:45 | お開き | | |



①
講演会 開会挨拶
浅野 正治 総務会会長



②
講演「2019年の年頭にあって」
高橋 弘明 運営会議議長



③
特別講演「人工知能と脳科学」
人間性脳科学研究所 所長
澤口 俊之 様



④
講演会 閉会挨拶
柴 健一郎 総務会副会長



⑤
岩本 敏男 会長



⑥
経済産業省商務情報政策局
ヘルスケア産業課長
西川 和見 様



⑦
総務省情報流通行政局
情報流通高度化推進室長
飯村 由香理 様



⑧
一般財団法人
医療情報システム開発センター理事長
山本 隆一 様



⑨
中締め
事務局長
鈴木 義規

2018年度 第27回医事コンピュータ部会 業務報告会・特別講演

2018年度の医事コンピュータ部会業務報告会・特別講演は、43社84名の会員様のご参加をいただき、開催いたしました。

西村運営幹事の司会により、船橋部会長による「今年度の部会活動及び次年度に向けた活動の紹介」、7委員会の各委員長からは「今年度の委員会活動に係るトピックの報告」、森副部会長より、昨年9月に医事コン部会主催で実施しました、「フィンランドにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査」の報告が行われました。

特別講演では、社会保険診療報酬支払基金本部の田山審議役より、『今後の支払基金における業務改革の方向性とレセコン等のシステム改修への影響について』と題し、コンピュータチェックに適したレセプト様式やルールの見直し、今後どのように展開していくのかなどの最新情報をご講演いただきました。

参加者の会員の皆様方は、部会報告から特別講演終了まで熱心に聞かれておりました。

次年度も有意義な業務報告会の開催に向けて、企画・検討していきますので、よろしくお願い申し上げます。

◆開催日：平成30年12月7日（金）14：00～17：00 ◆場所：JAHIS第1～4会議室

プログラム（報告概要）

【部会業務報告】

1. 医事コンピュータ部会の活動状況

部会長挨拶	部会長	船橋 一宏	14：00～14：20
-------	-----	-------	-------------

2. 次世代ヘルスケア・システムの構築を想定した標準化の取り組み

医科システム委員会	委員長	野村 英行	14：20～14：30
-----------	-----	-------	-------------

3. 平成30年度診療報酬改定対応と歯科情報の標準化活動について

歯科システム委員会	委員長	西田 潔	14：30～14：40
-----------	-----	------	-------------

4. 電子処方箋について

調剤システム委員会	委員長	竹中 裕三	14：40～14：50
-----------	-----	-------	-------------

5. 今後の介護事業所システムへの影響動向について

介護システム委員会	委員長	畠山 仁	14：50～15：00
-----------	-----	------	-------------

6. 平成30年度のコメントマスターの変更状況

マスタ委員会	委員長	大西 仁	15：00～15：10
--------	-----	------	-------------

7. 電子レセプトの活用等について（平成30年度）

電子レセプト委員会	委員長	西口 妙子	15：10～15：20
-----------	-----	-------	-------------

8. DPCデータの現状と課題

DPC委員会	委員長	舌間 康幸	15：20～15：30
--------	-----	-------	-------------

9. フィンランドにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査報告

海外視察調査報告	副部会長	森 昌彦	15：30～15：50
----------	------	------	-------------

10. 【特別講演】今後の支払基金における業務改革の方向性とレセコン等のシステム改修への影響について

社会保険診療報酬支払基金	審議役	田山 優 様	16：00～17：00
--------------	-----	--------	-------------

◆報告会模様



特別講演
社会保険診療報酬支払基金 審議役
田山 優 様



会場風景



司会 西村運営幹事



部会報告 船橋部会長



医科システム委員会 野村委員長



歯科システム委員会 西田委員長



調剤システム委員会 竹中委員長



介護システム委員会 畠山委員長



マスタ委員会 大西委員長



電子レセプト委員会 西口委員長



D P C 委員会 舌間委員長



海外視察報告 森副部会長

2018年度 医療システム部会業務報告会 開催報告

2019年2月4日（月） JAHIS会議室にて78名のご参加をいただき、2018年度医療システム部会業務報告会を開催いたしました。

森本部会長による挨拶の後、湯澤副部長による「部会全体活動報告」、引き続き、各委員長より「今年度事業活動内容・次年度事業計画等」の報告が行われました。

今年度、特別講演の講師として、公益社団法人日本薬剤師会 副会長 田尻泰典様をお迎えし、「電子処方箋の取り組みと今後の展望」と題してご講演いただき、電子処方箋の検討経緯からガイドライン策定そして実証事業等、実現に向けた取り組みを分かり易くご解説いただきました。

最後に、亀井副部長による閉会挨拶が行われ、盛会のうちに報告会を終了いたしました。

以下に、当日の様様とプログラムを紹介いたします。

■ 2018年度 医療システム部会業務報告会プログラム

日時：2019年2月4日（月）14：00～17：30

場所：JAHIS会議室

◆ 司会進行： 運営幹事 高橋 俊哉

- | | | |
|--------------|-----|-------|
| 1. 部会長挨拶 | 部会長 | 森本 正幸 |
| 2. 部会全体活動報告 | 副部長 | 湯澤 史佳 |
| 3. 電子カルテ委員会 | 委員 | 高山 和也 |
| 4. 検査システム委員会 | 委員長 | 藤咲 喜丈 |
| 5. 部門システム委員会 | 委員長 | 大森 巧 |
| 6. セキュリティ委員会 | 委員長 | 茗原 秀幸 |
| 7. 相互運用性委員会 | 委員長 | 木村 雅彦 |
| 8. 電子処方箋TF | リーダ | 木村 雅彦 |
| 9. 特別講演 | | |

「電子処方箋の取り組みと今後の展望」

公益社団法人日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典 様

- | | | |
|----------|-----|-------|
| 10. 閉会挨拶 | 副部長 | 亀井 正昭 |
|----------|-----|-------|



司会進行
高橋 俊哉 運営幹事



部会長挨拶
森本 正幸 部会長



部会全体活動報告
湯澤 史佳 副部会長



電子カルテ委員会
高山 和也 委員



検査システム委員会
藤咲 喜丈 委員長



部門システム委員会
大森 巧 委員長



セキュリティ委員会
荻原 秀幸 委員長



相互運用性委員会／電子処方箋TF
木村 雅彦 委員長／リーダー



特別講演
公益社団法人日本薬剤師会
副会長 田尻 泰典 様



閉会挨拶
亀井 正昭 副部会長



会場風景



会場風景

2018年度 保健福祉システム部会 業務報告会開催報告

2019年2月22日（金）JAHIS会議室にて93名のご参加をいただき、2018年度 保健福祉システム部会業務報告会が開催されました。

藤岡部会長による今年度の活動状況報告の後、地域医療システム委員会、福祉システム委員会、健康支援システム委員会の各委員長からトピックスを織り交ぜながら今年度の委員会活動について報告を行いました。

特別講演は、経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課 課長の西川和見様と課長補佐の入江奨様より、「健康医療ICTの利活用・投資促進を目指した取り組み」と題して、超高齢社会の2040年に目指すべき将来像とその実現に向けた健康経営の取り組み等についてご講演をいただき、貴重な時間を過ごすことができました。

以下に、当日のプログラムと発表模様を紹介します。

●2018年度 保健福祉システム部会 業務報告会プログラム

日時：2019年2月22日（金） 14:00～17:30

場所：JAHIS 会議室

◆司会進行： 運営幹事 松原 修

1. 部長挨拶
「部会活動状況」
部会長 藤岡 宏一郎
2. 地域医療システム委員会
「地域医療ネットワークに関連する各種動向について」
委員長 田中 良樹
3. 福祉システム委員会
「介護・障害福祉・国保・子育て・保健衛生の制度改正について」
委員長 金本 昭彦
4. 健康支援システム委員会
「健康支援システムを巡る最近の動向」
委員長 鹿妻 洋之

【特別講演】

「健康医療ICTの利活用・投資促進を目指した取り組み」

経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課 課長 西川 和見 様
課長補佐 入江 奨 様



特別講演 西川 和見 様



特別講演 入江 奨 様



司会進行 松原 修 運営幹事



部会長挨拶 藤岡 宏一郎 部会長



地域医療システム委員会 田中 良樹 委員長



福祉システム委員会 金本 昭彦 委員長



健康支援システム委員会 鹿妻 洋之 委員長



会場の様子

2018年度 標準化推進部会 業務報告会開催報告

2019年2月1日（金）14時からJAHISに於いて、2018年度標準化推進部会業務報告会を67名の参加を得て開催いたしました。

西山運営幹事の司会進行で、大沢部会長による開会挨拶の後、大塚副部会長の全体活動紹介、国内標準化委員会、国際標準化委員会、普及推進委員会、安全性・品質企画委員会の各委員長から2018年度の活動状況、国内外の動向・トピックスについての報告がありました。

特別講演として、国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター長の 水島洋様より「保健医療福祉領域におけるブロックチェーン技術活用の現状と展望」と題してご講演いただき、医療情報データベース整備の必要性、ブロックチェーン技術の概要、活用例と標準化、医療分野への活用例と課題について海外での事例も交えながら分かり易くご解説いただきました。

最後に伊藤副部長から閉会挨拶を行い盛会のうちに報告会を終了いたしました。

なお、報告会に関する情報は、JAHISホームページの [活動と報告](#) > 業務報告会 > 標準化推進部会に掲示されていますのでご覧ください。

■プログラム

司会進行	西山 喜重	運営幹事
1. 標準化推進部会部会長挨拶	大沢 博之	部会長
2. 標準化推進部会全体活動紹介	大塚 正明	副部会長
3. 医療情報標準化を取りまく動向について	佐々木 文夫	国内標準化委員長
4. 国際標準化活動について	岡田 真一	国際標準化委員長
5. 標準化の普及活動について	岩津 聖二	普及推進委員長
6. 患者安全に関する国際・国内動向について	岡田 真一	安全性・品質企画委員長
7. 【特別講演】 「保健医療福祉領域におけるブロックチェーン技術活用の現状と展望」	水島 洋 様	医療ブロックチェーン研究会 会長 一社) ITヘルスケア学会 代表理事 国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター長
8 閉会挨拶	伊藤 毅	副部会長



特別講演
水島 洋 先生



部会長挨拶
大沢 博之 部会長



司会進行
西山 喜重 運営幹事



部会全体活動報告
大塚 正明 副部会長



国内標準化委員会
佐々木 文夫 委員長



国際標準化委員会
安全性・品質企画委員会
岡田 真一 委員長



普及推進委員会
岩津 聖二 委員長



閉会挨拶
伊藤 毅 副部会長



会場風景

HL7 セミナー開催

JAHIS が団体会員 A である日本 HL7 協会主催の HL7 セミナーが開催されましたので、紹介いたします。詳細な内容、および、一部の発表資料は、つぎの URL にありますのでご覧ください。

日本 HL7 協会 HP <http://www.hl7.jp/>

なお、JAHIS 会員各社は日本 HL7 協会の事業法人会員と同等の権利を有しておりますので、日本 HL7 協会主催のセミナーに会員価格（無料）で参加出来ます。

第64回 HL7 セミナー 於：JAHIS 2018年3月2日（金）13:30 ～ 15:45

テーマ：HL7 標準規格『退院時サマリー』のご紹介

1. 退院時サマリー開発検討の経緯
日本 HL7 協会 事務局長 株式会社 HCI 豊田 建
2. 退院時サマリー規格概要
日本 HL7 協会 技術委員会副委員長 平井 正明
3. 退院時サマリー標準化の背景
日本 HL7 協会 会長 浜松医科大学教授 木村 通男
4. 実装デモンストレーション
富士フイルムメディカルITソリューションズ株式会社
統合診療支援グループ マネージャ 大櫻 裕之

第65回 HL7 セミナー 於：会議するなら 新橋 2018年4月11日（水）13:30 ～ 17:00

テーマ：HL7 標準規格『CDA』解説

1. CDA 標準について
日本 HL7 協会 会長 浜松医科大学教授 木村 通男
2. CDA の概要
日本 HL7 協会 情報教育委員会委員長 高坂 定
3. CDA 標準規格解説と規格開発について
日本 HL7 協会 技術委員会副委員長 平井 正明
4. CDA 標準を用いたドキュメント交換規約 検討事例紹介
JAHIS 地域医療システム委員会 地域医療診療文書標準化WG サブリーダー 矢原 潤一

第66回HL7セミナー 於：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 2018年6月21日（木）13:00～14:30
 テーマ：HL7入門『HL7標準 退院時サマリー』解説

1. HL7 CDAの概要
 日本HL7協会 情報教育委員会委員長 高坂 定
2. 退院時サマリー概要
 日本HL7協会 技術委員会副委員長 平井 正明
3. 実装デモンストレーション
 富士フイルムメディカルITソリューションズ株式会社
 統合診療支援グループ マネージャ 大櫻 裕之

第67回HL7セミナー 於：東京ベイ有明ワシントンホテル 2018年7月13日（金）15:00～17:00
 テーマ：臨床研究データベース構築とその最新動向

1. HL7の最新動向とSS-MIX2の標準化状況について
 日本HL7協会会長 浜松医科大学教授 木村 通男
2. SS-MIX2を用いた臨床データベースの構築と活用上の留意事項
 一般社団法人 医療データ活用基盤整備機構 岡田 美保子
3. 国立病院機構「診療情報集積基盤（NCDA）」の運用状況と今後の施策
 独立行政法人 国立病院機構 本部情報システム統括部副部長 渡辺 宏樹

第68回HL7セミナー 於：福岡国際会議場 2018年11月22日（木）13:00～15:00
 テーマ：HL7入門とドキュメント標準

1. HL7入門、SS-MIXストレージ、TC 215/WG2
 日本HL7協会会長 浜松医科大学教授 木村 通男
2. 退院時サマリー規格概要
 日本HL7協会 情報教育委員会委員長 高坂 定
3. 「JAHIS診療文書構造化記述規約共通編 Ver.1.0」について
 JAHIS検査システム委員会 委員長 日本光電工業株式会社 藤咲 喜丈
4. 「JAHIS地域医療連携における経過記録構造化記述規約Ver.1.0」について
 JAHIS地域医療システム委員会 地域医療診療文書標準化WGサブリーダー 矢原 潤一

日本薬剤師会学術大会

事業推進部 日薬展示委員会 委員長
(PHC株)

田代 哲也 Tashiro Tetsuya



日薬展示委員会では、毎年秋の連休の2日間、開催地を変えて開催される「日本薬剤師会学術大会」(主催：公益社団法人日本薬剤師会、開催地の都道府県薬剤師会)の併設展示・IT機器コーナーの出展取りまとめ、小間割り～出展社説明会～小間設営～大会当日運営管理、集客活動などを行っております。

日本薬剤師会学術大会は、1968年(昭和43年)の第1回東京大会(日本薬剤師会創立75周年式典)に始まり、保険調剤はもとより、在宅医療、介護、地域医療など薬剤師が携わる業務の学術的な発表を行う場として、全国から多数の薬剤師が一同に参集する業界最大規模の学術大会です。それとともに、薬局向けシステムメーカーにとっては年間最大規模の製品展示、新製品発表の絶好の機会となっています。

今年度の第51回日本薬剤師会学術大会・石川大会は2015年3月に北陸新幹線が開通し、東京から2時間30分、大阪・名古屋からも同じく2時間30分と、かつてよりはるかに便利になった石川県金沢市で開催されました。本大会は、「人として、薬剤師として」をテーマに、2018年9月23日(日)～24日(月・祝)に石川県立音楽堂、ホテル金沢(IT機器展示)、ANAクラウン



プラザホテル金沢、ホテル日航金沢などを会場に開催されました。第49回の名古屋、第50回の東京と大都市圏での開催が続いた後でしたが、来場登録者数は9,000余名を記録、IT機器展示会場(21社出展、スタンダードブース：30小間、フリーブース：400㎡)も終日賑わい、出展規模的には名古屋大会と同等の展示を行うことができました。

そして来年度、第52回日本薬剤師会学術大会・山口大会は、「原点 思い出せ 火を灯せ」をテーマに、2019年10月13日(日)～14日(月・祝)に山口県下関市にて開催されます。大会会場は、下関市民会館、海峡メッセ下関など。今回は、学術大会にあわせて山口県薬剤師会創立130年記念大会を10月12日(土)に開催するため、例年とは異なりIT機器展示も3日間となり(予定・調整中)、

より多くの薬剤師の皆様に各社商品をご覧頂けることと思います。

山口県薬剤師会は、1889年（明治22年）に「防長薬剤師会」として発足し、2019年には創立130周年を迎えますが、全国から薬剤師が集まる学術大会を開催するのは初めてとのこと。新元号のもと、初の開催でもあり、中原会長をはじめ山口県薬剤師会の皆様の意気込みも十分です。出展企業各社の皆様にご満足のいく成果を出すべく取り組んでまいり所存ですので、来年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

以下に、第52回日本薬剤師会学術大会・山口大会の概要を記します。

◆第52回日本薬剤師会学術大会・山口大会

- 1) 開催期間：2019年（平成31年）
10月13日（日）～14日（月・祝）
※10月12日（土）山口県薬剤師会創立
130年記念大会を開催
- 2) 開催場所：下関市民会館、海峡メッセ下関、他
- 3) メインテーマ：「原点 思い出せ 火を灯せ」

また、2020年以降の日本薬剤師会学術大会もすでに決定していますので、下記に記します。

■第53回日本薬剤師会学術大会

会 期：2020年10月10日（土）～11日（日）
開催地：北海道札幌市

■第54回日本薬剤師会学術大会

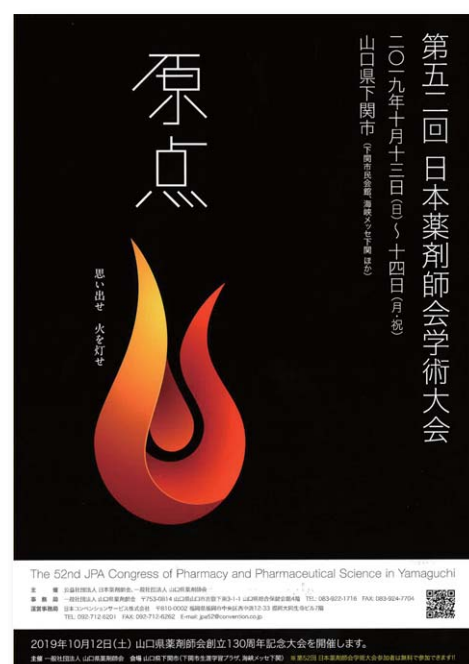
会 期：2021年9月19日（日）～20日（月・祝）
開催地：福岡県福岡市

■第55回日本薬剤師会学術大会

会 期：2022年10月9日（日）～10日（月・祝）
開催地：宮城県仙台市

■第56回日本薬剤師会学術大会

会 期：2023年10月8日（日）～9日（月・祝）
開催地：和歌山県和歌山市



総務会報告

事務局総務部長

谷口 浩一 Taniguchi Koichi



会員の皆様には平素より総務会の運営にご協力・ご支援をいただき有難うございます。前号では「総務会の紹介」をしました。「縁の下の力持ち」的存在の総務会のご理解いただけたのではないかと思います。そこで本稿では、2018年度に実施した総務会の取組み及びその成果についてご報告いたします。

総務会のミッションは、「ヘルスケアIT業界リードに向けた新規会員獲得」、「会員・非会員への本会活動の発信と情報共有促進」及び「法人に相応しい会員活動支援と環境整備」であり、今年度は（1）第8期定時社員総会の開催、（2）会誌62号（4月）、会誌63号（10月）の発刊、（3）JAHIS入会のおすすめパンフレットの作成、（4）第5会議室の天窓工事、（5）リフレッシュコーナーのリニューアル、（6）機能別組織の導入、（7）会計システムの実稼働、（8）JAHIS25周年記念イベント企画支援、等を実施いたしました。

今回は、総務会メンバーが全員参加して熱く（？）語った「集中討議」と、その中で決まった「25周年記念名刺」の配布についてご報告します。

1. 集中討議

今年度は総務会で初めてとなる合宿形式による集中討議（10月12日（金）～10月13日（土））を行いました。これまでの総務会運営で課題となっていた項目について議論を深め、同時に総務会メンバーの親睦を深めました。集中討議には総務会のメンバー全員が参加して、(a) 賀詞交換会の講演会の企画、(b) 総務会の重要テーマである新規入会の促進策、(c) 2019年度の総務会事業計画、(d) 25周年記念イベントの企画案、(e) 会誌の25周年記念号の発刊、等を議論しました。

講演会の講師はTV等でもご活躍の脳科学者、澤口俊之氏をお迎えする企画であったことから、「脳の老化と改善法」、「最先端の脳科学」、「TV番組制作の裏話」等を盛り込んでいただけるよう申し入れることにしました。お陰様で1月16日の講演会にご参加いただいた皆様からは、大変好評をいただくことができました。

入会促進では「JAHISの信頼感、ブランドイメージの向上と普及」を図るため、(a) メディアの活用も含めたプレゼンス向上策を検討すべき、(b) 委員会参加が困難な地方会員にJAHIS参加の目的・意味をヒアリングする「地方懇談会」を企画したい、(c) 地方の会員に対するWeb研修、教育セミナー等の検討をすべき、(d) 入会理由・退会理由を分析する、等の意見が出されました。総務会として、今後はこれらを具体化してゆきたいと考えております。

2019年度の事業計画では、「会員サービスの向上」をテーマに議論をしました。中でもJAHISのHPは重要な情報発信のツールであることから、各サイトの閲覧数、滞在時間他の「動態」を分析することによって今後のレイアウト改善に繋げ、JAHISのブランドイメージ向上を図ることが提案されました。またJAHISのステータス向上については、政府系委員会の参加状況や発言内容等の発信、地方自治体や関係団体との関係に関する情報発信、広報機能・情報発信力の充実、等に取り組んでゆくことになりました。

25周年記念イベントの検討では、2020年の賀詞交換会を兼ねて同年1月下旬に実施すること、「ビジョン2030」を踏まえた将来像を提示すること、また会場についてはホテルも含めて検討すること、等の申合せを行いました。次にご紹介する「25周年記念名刺」を作成・配布することも、この集中討議において決定したことの一つです。併せて、会誌でも25周年記念号を企画することとし、記念イベントのタイミングで発行することも決まりました。これに向けて2019年6月の総会の後、会誌の編集チームを組織することとしております。

2. 25周年記念名刺の作成・配布

JAHISは2019年4月に創立25周年を迎え、これを記念するイベントの企画を進めているところです。そのイベントに先立って、JAHIS会員で特に関係機関との接点の多い会員を対象に、25周年のロゴ（下図）をあしらった記念名刺を配布いたしました。1月16日の賀詞交換会で使っていただくべく、まずは第一弾として110名程の会員（主としてJAHIS役職者）への配布を行いました。現在、第二弾として、部会長が推薦する対象者を募集しております（執筆時点）。25周年をアピールするために、JAHIS会員として対外的な活動をされる際に積極的にお使いいただければ幸いです。

名刺に印刷されている記念ロゴのデザインは総務会にて選定しました。最初にネット上に公開されている先例を参考にいくつかのパターンを選んで総務会メンバーで「イメージ合わせ」をした後、専門のデザイン会社に制作を依頼したものです。このロゴは2020年3月31日までご利用いただけます。JAHISのHP（会員サイト）にも登録しており、これを使った発表用のテンプレートも同じ場所にご用意しております。会員の皆様に積極的にご利用いただき、JAHISが25周年を迎えることを広くアピールいただければ幸いです。



なお、本稿でご紹介した諸施策は、総務会の2019年度事業計画にも組み込みました。集中討議で決まったことを着実に実行してゆきますので、会員の皆様には引き続き総務会へのご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

普及推進委員会 アンケート結果と考察について

1) はじめに

普及推進委員会は、有識者から「標準類を定めるだけでなく、普及をしなければJAHISとして完全ではない」、といったアドバイスもあり、2010年に普及啓発活動をするために発足しました。

発足した際に「システムの標準と普及」として、「各企業のお客様への接点力の高い営業が標準類について積極的に提案を行う現場の風土を醸成する」ことが目的となりました。

2) これまでのあゆみ

しかしながら、営業ヒアリング結果から標準化に関する理解が不足している現状が判明したため、「現場最前線にいる営業マンが医療情報の標準化に対する取組みを理解し、積極的に提案できるよう普及活動を行う」ことを活動方針とし、これまで、数種類のパンフレットを作成し、一定の成果がありました。

昨年度は、主要な標準類（規格・規約・マスターなど）に関して、電子カルテシステム、診療支援システム群、地域医療連携の各システムとの関係を図示した「標準類オーバービューチャート」と、これまで解説した「標準化関連用語」を一つに集約したパンフレットをリリースして参りました。

3) アンケート

今年度の活動として、営業に対して、パンフレットリリース後の理解度に関するアンケートを実施し、統計・分析を実施しました。

今後、定点観測するためのアンケート項目を固定することとし、前回のアンケートと同様にパンフレットの第一版、第二版に掲載した12用語、標準類オーバービューチャートに掲載した36項目について理解度を主なアンケート目的として実施いたしました。

過去のアンケートと比較し、パンフレットの第一版、第二版に掲載した12用語に関する認知度の割合としては、おおむね増加していました。特にIHE-J、ICD-10、IHE統合プロファイル、JLAC10がほぼ10%近く増加していました。パンフレット配布も含めて、営業活動において、こうした用語に触れる機会が増えてきた結果と考えられます。

表は、各用語に関してアンケートを取った総人数107名の理解度の人数割合で降順にソートした表です。横軸に経験年数①5年以下②6～10年③11年～15年④16年以上⑤各年代総計、縦軸に標準類オーバービューチャートに掲載された各標準類が配置し、理解している人数割合によって青色（75%～100%）、緑色（50%～74%）、黄色（40%～49%）、ピンク色（25%～39%）、赤色（24%以下）で区分しました。

5年以下の若手層では赤及びピンクの面積が多く、ベテラン層では青及び緑の面積が多くなっており

標準類	①5年以下	②6年～10年	③11年～15年	④16年以上	総計
25.DICOM	97%	100%	100%	100%	99.4%
35.SS-MIX2	95%	100%	100%	100%	98.7%
18.診療情報提供書	85%	92%	96%	95%	91.8%
27.診療録等の電子保存ガイドライン	77%	92%	96%	100%	91.2%
2.ICD10対応標準疾病マスター	72%	100%	92%	95%	89.5%
1.医薬品HOTコードマスター	59%	80%	75%	89%	75.9%
17.診療情報提供書及び電子診療データ提供書	59%	68%	78%	89%	73.7%
5.臨床検査マスター	51%	76%	75%	89%	72.9%
29.HPKI電子認証ガイドライン	67%	76%	71%	68%	70.5%
3.標準歯科病名マスター	36%	80%	63%	58%	59.1%
28.医療情報セキュリティ開示書ガイド	36%	64%	54%	79%	58.3%
32.医療文書に対する電子署名規格	23%	68%	54%	68%	53.4%
23.内視鏡DICOM画像データ規約	41%	68%	46%	58%	53.2%
24.可搬型医用画像	38%	48%	63%	63%	53.0%
22.病理・臨床細胞DICOM画像データ規約	49%	64%	42%	53%	51.8%
26.医療波形フォーマット	36%	68%	58%	37%	49.8%
6.処方データ交換規約	26%	56%	42%	63%	46.6%
33.HPKI対応ICカードガイドライン	28%	52%	42%	63%	46.3%
9.放射線データ交換規約	23%	48%	54%	58%	45.8%
16.地域医療連携における情報連携基盤技術仕様	33%	56%	50%	42%	45.4%
4.JJ1017	18%	44%	50%	68%	45.1%
7.注射データ交換規約	23%	52%	42%	63%	45.0%
8.病名情報データ交換規約	23%	48%	38%	58%	41.6%
19.地域医療連携のIHEITI適用ガイド	24%	40%	46%	53%	40.5%
14.臨床検査データ交換規約	15%	40%	42%	58%	38.7%
30.リモートサービスセキュリティガイドライン	28%	40%	33%	47%	37.2%
13.生理検査データ交換規約	15%	32%	38%	53%	34.4%
34.シングルサインオン実装ガイド	21%	40%	29%	47%	34.3%
12.内視鏡データ交換規約	18%	28%	38%	53%	34.0%
36.JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン	16%	24%	39%	56%	33.6%
15.データ交換規約(共通編)	23%	32%	33%	42%	32.6%
10.放射線治療データ交換規約	18%	32%	29%	42%	30.3%
11.病理・臨床細胞データ交換規約	21%	28%	25%	37%	27.6%
20.医療情報連携基盤実装ガイド本編	3%	28%	25%	26%	20.5%
21.医療情報連携基盤実装ガイドレセコン編	5%	20%	13%	21%	14.7%
31.監査証跡のメッセージ標準規約	0%	16%	8%	21%	11.3%

凡例

100%～75%

74%～50%

49%～40%

39%～25%

24%以下

表 各標準類に関する年代別理解度割合

経験年数と比例していることがわかります。しかしながら、「医療波形フォーマット」や「HPKI対応ICカードガイドライン」など割と新しい標準類については比例していません。

理解度が高いのはDICOM、SS-MIX2、診療情報提供書、診療録などの電子保存ガイドライン、ICD10対応標準疾病マスター、医薬品HOTコードマスターとなっています。逆にデータ交換規約関連は前回と同様に理解度が低くなっています。どちらかというと技術的様相が強く、営業活動にはあまり使われていないことが原因と考えられます。

理解度の上位の標準類は営業として知っていることが望ましいと思われそうですが、その一方で営業といっても専門分野が異なる可能性もあり、「同一の基準で理解を求めるべきではない」「認知度が低い標準類も使うべき人が理解していれば良いのでは」という意見もありました。

こうした結果から、パンフレットの配布は一定の成果はあるものの、若手層にとっては数も多く、何から手を付けてよいかわからない状態となるため、優先的に知っておいてもらいたいものを確実に身に付けてもらうための施策を検討することとなりました。

4) 来年度からの施策検討

今後の標準化の普及推進における施策としては情報提供だけでなく、知るべきことを理解していただくためのセミナーが必要と考えました。セミナーについては、事業推進部の福岡部長が委員の一人であるため、事業推進部とともに進めて参ります。

まずは、セミナーに対してアイデア出しを行いました。主な条件として、①知っておく必要があるものと、そうでないものを仕分けする（だれに対して、どこまでを理解してもらう範囲をどうするかを検討）、②セミナー受講意欲を駆り立てる「ムチ」と「あめ」の設定（標準類に対する資格認定によるインセンティブの検討）、③学会、シンポジウムやイベントなどとコラボレーション（効率的・効果的なイベントや学会などとの協業の検討）などが挙げられました。

条件を踏まえ、若年層の底上げが全体の認知度・理解度を上げられると思われるため、営業経験5年目までの基礎セミナーの開催から考えます。もちろん、現在のJAHISで実施している教育カリキュラムに組み込むことも視野に入れております。

そのために、まず、手始めに自身の標準化に関するレベルを見える化するために、若手層、ベテラン層など層別における指標を定めたいと思います。各会員企業における人材育成の観点からも、推奨レベルを通知することが市場全体にも良い影響を与えているからです。そのうえで、知っておくべき標準化に関する知識を共有し、受講時には、各レベルに合わせ、修了証あるいは認定証をお渡しすることを考えています。モチベーションという観点から、技師ポイントのような、インセンティブが必要ですし、また、中堅層やベテラン層のフォローも考え、生涯学習として「e-learningなどのオンライン学習」も企画したいと思います。

企画にあたっては、実際に使えるためのセミナーも実施することが必要です。ホームページのアクセス数も傾向把握のひとつの手段でありますし、補助金関連などのトレンドキーワードに対し、タイムリーに知識を提供できる特別研修会も考える必要があります。さらに、用語の理解だけでなく、実際のユーザー事例（どのような規格を、なぜ採用し、効果と課題はなにかなど）講演も企画し、現場の実態共有も実施したいと考えます。

ここに挙げたのは、あくまでアイデアですが、理解しやすく、市場の傾向にあった研修を実施すべく準備を開始しはじめています。

5) まとめ

今年度は、第38回医療情報学会の「HELICSチュートリアル 標準規格の普及度について考える」(2018/11/22)でJAHISの普及推進活動について報告をしました。チュートリアル内では、「標準類採用に対するなにかしらの採用時のインセンティブの政策も必要ではないか」、「学会などでの研究、評価も欠かせない」といった意見も挙がり、医療情報学会を中心としたさまざまな医療機関様、関係各省庁、そしてベンダーが一体となって標準化の普及推進をはかっていく方向性となったと認識しています。

JAHISの各部会からも「標準化の普及、認知度を高めることで会員各企業やお客様に対して価値を提供できることが重要である」、「標準化が存在しているからこそ、具体的な技術検討の議論や企業間の競争が成り立つのではないか」というお声もいただいています。

今後も、皆様と共に、更なる標準化の普及推進をはかりたいと考えています。何卒よろしくお願いいたします。

フィンランドにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査報告

2003年「韓国医療保険EDIシステム視察」から始まった医事コンピュータ部会主催の海外視察調査は、今回のフィンランドにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査で14回目を迎えた。

日本では、電子処方箋の運用やオンラインによる医療保険の資格確認の検討も始まり、医療分野におけるネットワークを活用したデータの共有および活用は、最も注力すべき分野である。そこで今回は、今年4月10日に厚生労働省が、保健及び福祉分野における政策及び法整備などに係る協力覚書を交わしたICT利用先進国として世界の先頭グループを走っているフィンランドを視察先として企画することとなった。

今回の視察では、フィンランドの医療制度を担っている各組織を訪問した。政府機関や遠隔医療IT協会、首都圏の病院、民間のクリニック、チェーン薬局である。

最初の視察先である、フィンランド社会保険庁では、全国医療情報アーカイブ「Kanta」の概要及び医療データの利活用状況、更に今後の計画についての説明を聞くことができた。フィンランドでは2007年当時から国内の医療機関のほぼ全てに電子カルテが導入されており、診療記録は電子カルテを介して、地域のEHRシステムに連携されていた。当時EHRシステムは地域毎に異なる仕様となっており、地域をまたがった医療情報の有効活用を進めることができなかった。2007年より始まったKantaのプロジェクトは2012年には本格運用をスタートし、医療関係者が医療情報を相互活用することに加えて、国民向けのポータルサイト（My Kanta）のサービスを現在では200万人が利用するほどに進んでいる状況となっていた。今後は、蓄積されているデータの二次利用を促進するため法改正を含め次の社会制度改革を進めている状況である。

フィンランド遠隔医療IT eHealth協会は国内及び国外との遠隔医療とeHealthの分野における先駆者として活躍している。eHealth協会の働きによりフィンランドにおいて2012年から医療情報分野の専門技術を履修する医師教育カリキュラムを確立して、既に100人以上の医師が専門技術を習得するプログラムに参加している。

また、この視察先はTerveystaloという医療機関の機能も提供している。全国で180の医療機関を運営しており、GP（かかりつけ医）及び病院サービス、検査ラボ、企業健康サービスなどを運営するフィンランド最大の医療ネットワークサービスを提供している企業でもある。ここでは、2016年からは24時間365日チャット形式での診断サービスを提供している。これは、200人以上の医師が参加したネットワークサービスであり、利用者はいつでも予約なしに医師からの応答を受けることができる。また、Terveystaloが提供するアプリを活用して患者自身が健康管理を行い、医療スタッフがサポートする健康プランは、企業の健康リスクがある患者の多くが利用しているとのことであった。

国内最大の病院連合である首都圏病院連合から、国からの援助を受けて取り組んでいるバーチャルホスピタル2.0という先進的なシステムの開発状況について伺った。バーチャルホスピタル2.0では患者の症状に応じて治療前にテレビ電話などを使い自宅で検査を行い、治療中には患者自身が日々の結果を入力することで、医師や看護師がその入力データを確認してケアを行う仕組みを提供する計画となつて

いる。現在、まだ実用化前の段階とのことであったが、先進的な医療ICT化への取り組みの一つとして興味深い計画であると感じた。

Aava Kamppi は、ヘルシンキ中央駅から徒歩5分程のオフィスビルの9フロア（6000平米）に立地しており、Aavaは病院及びクリニックを首都圏9都市で12施設展開している国内4位の民間医療機関である。外来診療を中心としているが、MRI、マンモグラフィー、トモグラフィー、内視鏡などの医療機器の保有が充実した施設であった。民間医療機関らしく、婦人科のフロアの待合室は広くソファやシャンデリアが用意されている。また、小児科のフロアにはフィンランドの有名絵本作家（マウリ・クナス氏）のデザインを取り入れ、子供に優しい施設として充実していた。

薬局視察では、フィンランド唯一のチェーン薬局であるYliopiston Apteekkiの中でも最大規模の店舗であるKaivopiha店舗を視察した。この店舗は150人のスタッフ（内6割が薬剤師）で7時開店24時閉店の17時間の営業時間で年間100万人の利用者がある薬局であった。この薬局チェーンはオンライン薬局の許可もあり、医薬品のネット販売を行っている。処方薬は薬局受け取りだけでなく配送も行っている。薬局への処方情報伝送は2017年以降、例外を除き全て電子処方箋となっている。処方に関して特長的なことは、処方箋の有効期限が長く薬局にて処方薬を分割して受け取りできること、また処方期間が切れた場合には、Kantaのポータルから再処方申請が可能で通院せずに追加処方が受けられること、の2点である。

今回のフィンランド視察全体を通して、フィンランドの医療関係者が長年積み重ねてきた医療ICT化の取り組みは参考となることが多いと感じた。現状の社会福祉制度や人口規模や国民性の違いがあるが、医療ICT化や遠隔診療を考える上で参考にできる部分が多くあり、今後もフィンランド医療ICT化動向については注目していきたい。

医事コンピュータ部会では、1社もしくは個人では実現困難な海外視察調査を企画・実施している。海外の医療情報分野に目をむけ、情報収集と見識を深めることにより、これらの経験を部会活動に活かし、継続的に保健医療分野のICT化の推進と市場創造・市場拡大の実現に向けて取り組んでいきたいと考える。

最後に、医事コンピュータ部会の会員を中心とした19名・9社による視察団を結成することができ、視察の成功に至ったことに対し、参加者各位のご協力に感謝を申し上げたい。

なお、視察先などの概要については次ページ以降を、また、視察調査結果内容の詳細については、調査報告書として取り纏めたので、是非ご覧いただきたい。

1. 視察概要

(1) 日程

2018年9月10日（月）～15日（土） 4泊6日（機中1泊）

(2) 調査団



<調査団一覧（順不同）（敬称略）>

No	氏 名	会 社 名	代表団
1	石井 雅弘	株式会社NTT データ	団長
2	森 昌彦	富士通株式会社	副団長
3	西村 寿夫	PHC 株式会社	統括責任者
4	森野 國男	株式会社アキラックス	
5	大沼 裕	株式会社ソフトウェア・サービス	
6	高橋 清人	株式会社ソフトウェア・サービス	
7	鎌田 隆史	日立ヘルスケアシステムズ株式会社	
8	森本 正幸	富士通株式会社	
9	樋口 翔士	富士通株式会社	
10	木村 哲二	株式会社NTT データ	
11	山崎 孝博	株式会社NTT データ	
12	石木 康之	株式会社日立社会情報サービス	
13	星野 賢	株式会社日立社会情報サービス	
14	川野 雅雄	株式会社日立製作所	
15	山下 聡	株式会社日立製作所	
16	藤川 陽介	株式会社日立製作所	
17	辰野 未央	日本電気株式会社	
18	寺嶋 秀市	PHC 株式会社	
19	岸 和彦	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会	全体管理・引率

2. フィンランドの医療概況

(1) フィンランドの医療

- ・社会保健省は医療や子育てなどの各種法律を所管し自治体への補助金を交付している。
 - ・社会保障給付を担っているのは社会保険庁（Kansaneläkelaitos：KELA）である。
 - ・社会保険庁は治療費、疾病手当、出産手当、障がい手当の他に国民年金などの多岐にわたる給付を行っている。
 - ・医療機関の設置および医療従事者の配置は各自治体（市町村レベル）の責務で行われる。
 - ・医療保険は公的医療保険、民間医療保険、職業保険の3区分からなる。
 - ・公的医療保険は国と約300の市町村（クンタ：kunta）で税源により運営されている。
 - ・健康保険カード（Kela Kortti）には、社会保障番号が記載され、医療機関や薬局に提示することで個人の情報を一元的に紐付け管理している。
- この、社会保障番号（HETU）制度は1961年から開始され先進的な国として知られている。

(2) 医療の提供体制

- ・GP（かかりつけ医）制度である（イギリスや他の北欧諸国と同様）。
- ・保健・医療サービス提供の義務は自治体。二次医療などは連合を形成してサービス提供。
- ・一次医療は、全国192ヶ所に医療センターが設置されており、10数人の医師が公務員として従事。一次医療を担う医療センターは市町村が設置主体となる。
- ・二次医療は、専門医療として地域病院・中央病院（16ヶ所）、大学病院（5ヶ所）にて提供されている。

- ・民間診療所や民間病院があるが全体の1/5程度である。
- ・民間医療機関は、自費もしくは民間保険・職業保険などにより質の高いサービスを受けたい場合に利用する。あるいは小児科受診など公的医療機関の予約待ちが難しい場合に利用されている。
- ・近年、政府により大幅な社会保障改革が計画されており、既存の医療センターなど体制を見直す計画があるが、2018年7月現時点で未決事項も多い状況である。
例：都市部においては住民の多い地域に医療現場を移管。
過疎地域では移動医療サービス（歯科バスなど）のように医療サービス側が住民・患者側にアクセス。

(3) 医療保険制度

- ・全国民は国民健康保険に自動的に加入。また、1年以上滞在する外国人も加入可能。
- ・住民は、居住地域内の医療センターと、GP（かかりつけ医）が決められており、直接病院に行くことができない。
- ・診療は無料ではなく、治療内容に応じた料金が決まっている（年間上限額あり）。
ただし、妊婦の検査などは無料。
- ・歯科治療や薬品代、診断書発行費、民間医療機関からの依頼で実施する検査などは、公的保険対象外。

(4) 医療分野におけるICT化の現状

- ・フィンランドのeHealthの始まりは1995年であり、EU内では最も早く取り組まれている。
- ・フィンランドでは2007年にはすでに電子カルテの普及率がほぼ100%に達しており、日本と比較して患者に関する記録の大半が電子化されている。
- ・全国医療情報アーカイブ（Kanta）により、各医療機関のEHR情報をアーカイブし、全国の医療機関で情報共有が可能となっている。

（全国医療情報アーカイブ（Kanta））

- ・以前は、各医療区内の医療センターに患者の情報が共有化されていたが、他地域との間でデータが活用できないという問題を抱えていた。
- ・社会保険庁は、問題解決のため、2007年に全国医療情報アーカイブ（Kanta）の構築プロジェクトを開始。
- ・Kantaは大きく3つのサービスで構成されている。
 - ①診療情報アーカイブ
 - ②電子処方箋
 - ③患者向けポータル（My Kanta Pages）

（電子処方箋）

- ・フィンランドでは、2017年から例外的な事例を除き、処方箋の電子化を義務付ける法制度が施行されている。
- ・医師はブラウザベースの処方箋ソフトウェアサービス（kelain）から電子処方箋データを入力している。
- ・kelainは、社会保険庁（KELA）から提供されたソフトウェアサービス。

- ・入力された処方箋情報は医療記録アーカイブシステム (Kanta) に記録され、一元管理される。
- ・Kanta を利用した電子処方箋システムの利点として過去の投薬歴も簡単に把握できる点がある。これにより多剤の投薬などを防止することが可能になっている。

(医療IDカード)

- ・フィンランドでは、1961 年より社会保障番号を付与している。
 - ・出生のタイミングで医療機関が出生に関する必要な情報を人口情報システムに提供し登録されると社会保障番号が発行される。外国人がフィンランドに移住する場合も、人口情報システムに登録されたときに社会保障番号が発行される。
 - ・社会保障番号は所有者固有のものであり、恒久的に使用することを前提にしている。
 - ・フィンランド国籍を持つ国民に対して健康保険カード (KELA カード) を発行している。この健康保険カードに社会保障番号が記録されている。
 - ・フィンランド社会保険庁 (KELA) が国民に対して提供している社会保障サービスの申請などに健康保険カードが利用されている。
- ①医療費補助 ②出産手当 ③子育て支援 ④学生に対する奨学金支給 ⑤薬剤費の一部控除
⑥失業者手当 ⑦住宅補助 ⑧年金など



健康保険カードの券面

3. 視察先

(1) 訪問先：KELA (The Social Insurance Institution of Finland)

[フィンランド社会保険庁事務所]

■日時：2018年9月11日 (火) 14:00 ~ 16:00

■面談者：ティータ・ルンドクヴィスト (Tiia Lundqvist)

■訪問先概要

フィンランド社会保険庁 (KELA) は、国の社会保険を担当する独立行政機関である。

KELAの目標は、全国民の福利厚生を推進、最低限の生活保障であり、仕事としては、子を持つ家族のための手当、国民年金、失業保険、健康保険、リハビリテーション補助手当、労働安全衛生、学生のための奨学制度、住宅補助手当、徴兵のための保障などがある。



訪問先 KELA 外観



集合写真

(2) 訪問先：フィンランド遠隔医療IT eHealth協会
(Finnish Telemedicine and eHealth)

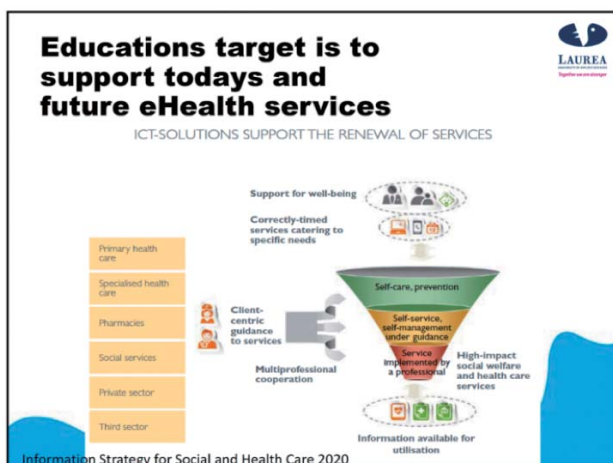
■日時：2018年9月12日(水)10:30～12:30

■面談者：Päivi Metsäniemi, Taru Seppälä,

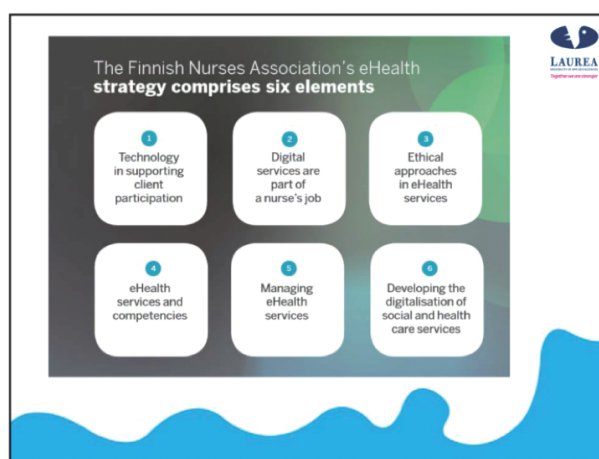
Outi Ahonen (LAUREA University of Applied Sciences ローレア応用化学大学所属、
eHealth協会役員)

■訪問先概要

フィンランドと国外において、国民の健康を医療分野におけるIT通信を通じ促進し、ヘルスケアに関する提言、方向性を示すことを目的としている業界団体。各地の公共医療機関のIT部門や教育機関からも参加が複数あり、全国各地に会員企業・団体が散らばり、過疎地や医療へのアクセシビリティの改善を目指している。国内外の医療組織と協力関係にあり、ヘルスケア分野の職員、スタッフ向けにセミナー、シンポジウム、研修などを実施している。



eHealthの教育資料1



eHealthの教育資料2

(3) 訪問先：HUS（首都圏病院連合）

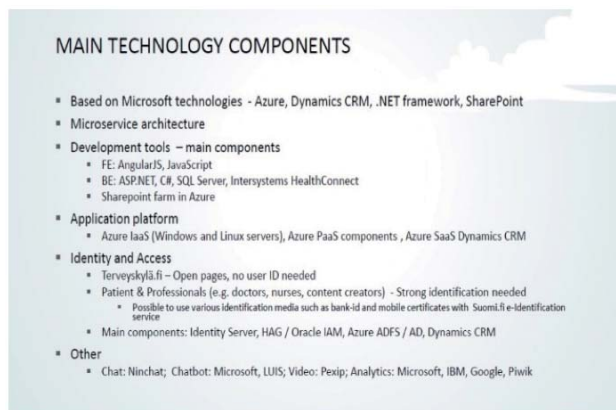
■日時：2018年9月13日（木）9:00～12:00

■面談者：Timo Makkonen

HUS バーチャルホスピタルプロジェクト開発マネージャー

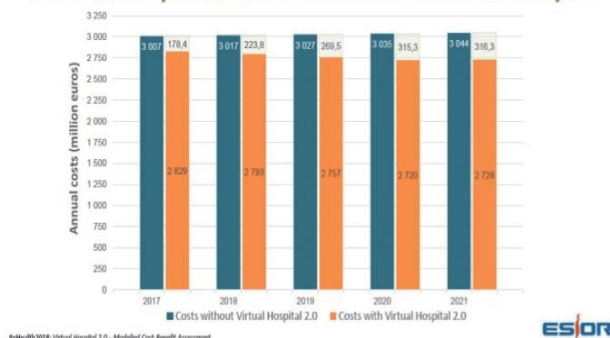
■訪問先概要

首都圏病院連合（HUS）は、ヘルシンキおよびウーシマー地方病院連合（Helsingin ja Uudenmaan Sairaanhoidopiiriの略）で、首都圏の24市町村165万人以上の住民を対象とした23の病院からなる組織連合である。フィンランド国内最大の病院連合であり、国からの援助を受けて今後の医療の方向性を示すプロジェクト「Virtual Hospital 2.0」を推進している。



VH2.0使用ソフトウェア一覧

Annual capacity freed on average 261 million euros for the first five years and 316 million euros in the fifth year



VH2.0のコスト効果試算

(4) 訪問先：Aava

■日時：2018年9月12日（水）14:30～16:00

■面談者：Hannele Fahlur（Aava Kamppi 施設長）

■訪問先概要

Aavaは1966年創立で、国内4位の民間医療機関。

病院およびクリニックを首都圏中心に9都市で12施設を展開。

同族持ち株会社で創立者の苗字がAavaであることから名づけられた。

今回訪問したAava Kamppi（Kamppiは地名）は、Aavaの中でも一番大きい施設で、ヘルシンキ中央駅から徒歩で5分程度の立地にある。1棟のオフィスビルの内9フロアを使用しており、6,000平米の広さがある。



Aava Kamppiの外観



フロア紹介

(5) 訪問先：薬局（Yliopiston Apteekki）

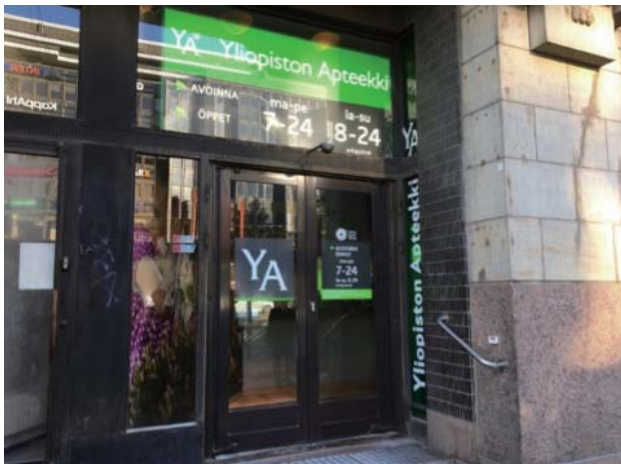
■日時：2018年9月12日（水）9:00～10:00

■面談者：Laura Ahonen（上級薬剤師）

■訪問先概要

フィンランド唯一のチェーン薬局で、フィンランド国内の13都市に17店舗展開している。また、ロシアやエストニアに数十店舗など、海外展開も行っている。

見学したKaivopihä店舗は最大規模の店舗で、年間100万人の利用がある。パートタイムを含めてスタッフが150人おり、うち約6割が薬剤師で、7時開店から24時閉店（土日は8時開店から24時閉店）までの17時間営業をシフト勤務で業務を行っている。



Yliopiston Apteekkiの店頭



薬局内カウンター

JAHISシングルサインオンにおける セキュリティガイドライン Ver.2.0のご紹介

医療システム部会 セキュリティ委員会
シングルサインオンWG リーダー
(富士通株)

山岡 弘明 Yamaoka Hiroaki



1) はじめに

多くの医療情報システムがマルチベンダーによる複数のシステムで構成されています。通常は利用するシステムごとに複数回のログオンを行う必要がありますが、1回の操作で複数のシステムにログオンする仕組み、いわゆるシングルサインオンを採用して利便性を高めることが一般的になっています。医療分野においては、それぞれのシステムに機微な個人情報が格納されているため、導入時も医療機関とベンダー双方がセキュリティ対策を講じる必要があります。

医療システム部会 セキュリティ委員会 シングルサインオンWGでは、医療分野におけるシングルサインオンのあり方、および情報セキュリティマネジメントと個人情報保護の視点から、医療機関とベンダーがそれぞれどのようなセキュリティ対策を行うべきか検討を行っています。

本章では、その活動により2018年12月にJAHIS標準として制定した「JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン Ver.2.0」をご紹介します。

2) 本ガイドラインの目的と対象範囲

本ガイドラインは、シングルサインオンの概念を整理し利用可能な技術的選択肢を解説することにより、シングルサインオン技術を採用したシステムの運用を行う場合に想定されるリスクとその対応への考え方（セキュリティリスクアセスメントと要求事項）を提示しています。Ver2.0では、シングルサインオンにおけるセキュリティリスクアセスメントと要求事項に、医療機関外システム（地域包括ケアシステムの実現に向けて普及が進んでいる地域連携システム）をスコープに含めたJAHIS標準として改版を行いました。

3) シングルサインオンの技術背景と導入効果

シングルサインオンは下記のような問題を解決するために考案された技術です。

- ・利用者が、個々のシステム毎にログオン操作を行わなければならない利用負荷
- ・利用者が、多数の認証情報を管理しなければならない利用負荷
- ・システム管理者が、パスワード問合せやリセット等を行わなければならない管理負荷
- ・他者が、本来の利用者に成りすまして重要データにアクセスする等のセキュリティリスク

導入初期は、「利用者の利便性・生産性向上」や「システム管理者の負荷軽減と利用者の待ち時間短

縮」といった利便性が重視されていましたが、昨今は「アクセス権限管理やログイン履歴の集約等のセキュリティレベルの向上」が重視され始めています。

4) シングルサインオンの各方式

シングルサインオンの実現には複数の方式があり、現在医療機関で主流となっている5つの方式（「代理ログオン方式」「リバースプロキシ方式」「エージェント方式」「Kerberos方式」「SAML(Artifact/Post)方式」）について仕組みと実現の為のシステム要件を説明しています。

5) 医療分野でのユースケースと実装モデル

典型的な医療機関におけるユースケースとして、経済産業省 平成16年度 先導的分野戦略的情報化推進事業「シングルサインオン実装仕様書」（平成17年3月）より参考にしたケース4件（「病棟看護」「放射線医師による読影」「放射線治療を行う医師による治療計画立案と照射準備」「生理検査判読」）、及び追加ケース3件（「外来診察前準備」「手術開始から終了まで」「病病連携時の他院診療情報参照」）を提示しています。

本ガイドラインの大きなポイントの1つは、医療機関外システムとのシングルサインオン時のセキュリティリスクアセスメントと要求事項の提示を行っている点です。医療機関外システムとのシングルサインオン時は、構成システムも多く認証における信頼関係の組合せが複数発生するため、ユースケースと実装モデルのパターンも複数かつ複雑になります。そのシングルサインオン時のサンプル実装モデル（図1）を提示し、リスクアセスメントを実施することで、実装パターンの整理も併せて行いました。

本章は、改版に際し最も時間をかけた章であり、非常に有意義な内容でもあるため、是非参考にして下さい。

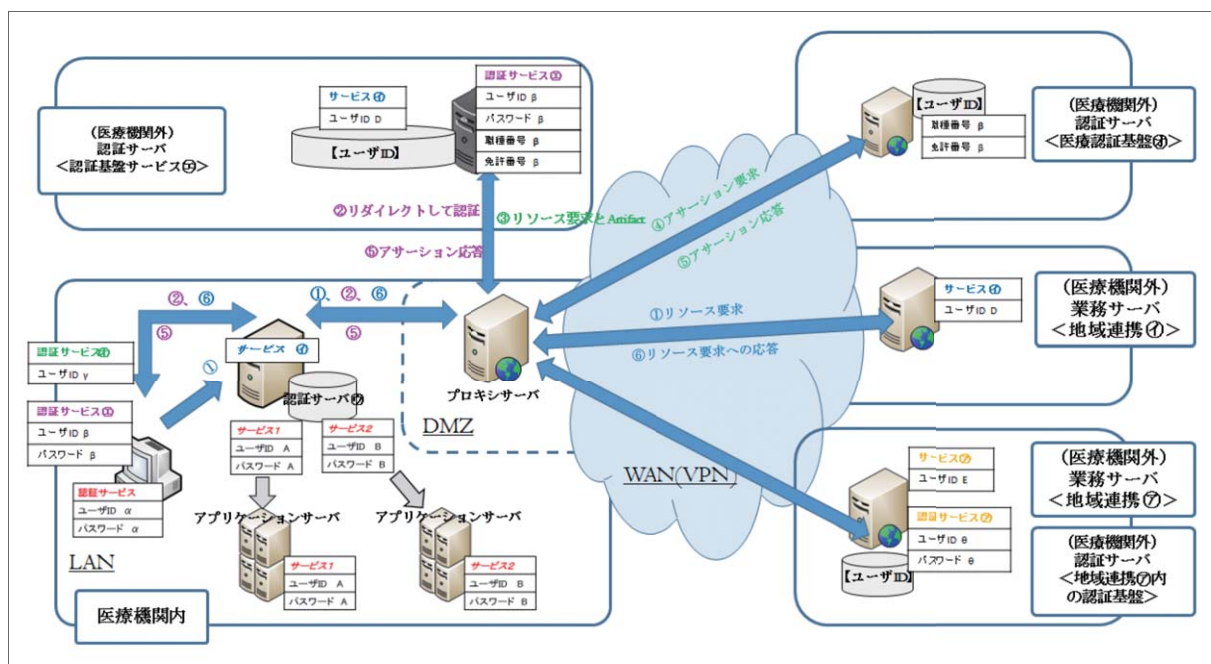


図1 医療機関外サイトとのシングルサインオン実施後のサンプル実装モデル

6) 医療分野のシングルサインオンにおけるセキュリティマネジメント

医療情報システムを取り扱う際に遵守すべきガイドラインとして「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第5版」が存在し、シングルサインオンを実装するにあたっては本ガイドラインの遵守は必須となります。しかしながら、そのガイドラインに基づいて医療機関が総合的な管理策を実施した前提でシングルサインオンも実現される内容であるため、医療情報システムベンダーが提供するシングルサインオンにおいて全ての要求事項に技術的対策を施すことが義務付けられているわけではありません。

本ガイドラインで実施した「シングルサインオン導入前後のリスクアセスメント」を読み解いて頂くことにより、導入後の情報セキュリティ向上の一助を担うことが可能となります。

加えて、本ガイドライン上のシングルサインオン時に新たに考慮しなければいけない脆弱性への対策だけでなく、シングルサインオン導入前に試算されたすべてのリスク値を見直し対策を施す（施設全体でリスクアセスメントの再整理を実施する）ことで、SSOの導入が利便性の向上のためだけでなく施設全体の情報セキュリティの向上に繋がることが期待出来ます。

7) さいごに

このガイドラインを参考にして頂くことにより、ベンダー各社がシングルサインオン技術を用いた利便性が高く安全なシステムを構築することの手助けとなるよう、微力ながら活動して参りました。

今後も医療分野でのICT活用が進む中、本ガイドラインは非常に有意義な内容となっておりますので、是非ご一読頂ければ幸いです。

世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画上の介護ワンストップサービスへの対応について

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 副委員長
(株)日立製作所)

川崎 英樹 Kawasaki Hideki



1. はじめに

2018年6月15日に「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」が閣議決定しました。「行政サービスを起点として、紙中心のこれまでの行政の在り方を含めた大改革を断行することで、国民が安全で安心して暮らせ、豊かさを実感できる社会を実現することを目指す」という基本的考え方の計画です。(図1)

計画の重点取組①「行政サービス改革」は、「行政サービスの100%デジタル化」、「行政保有データの100%オープン化」、「デジタル改革の基盤整備」の3本柱となっており、「行政サービスの100%デジタル化」の中にて、介護、死亡・相続、引越しの際に必要な諸手続のワンストップ化を推進し、手続負担の軽減を図ることが記されています。介護については2018年度から、死亡・相続、引越しについては2019年度から順次サービスを開始する計画となっています。

本稿では、上記計画の中から、福祉システム委員会に関わっている介護を取り上げ、介護保険手続のワンストップサービス（以下、介護ワンストップサービス）の取り組みを紹介します。

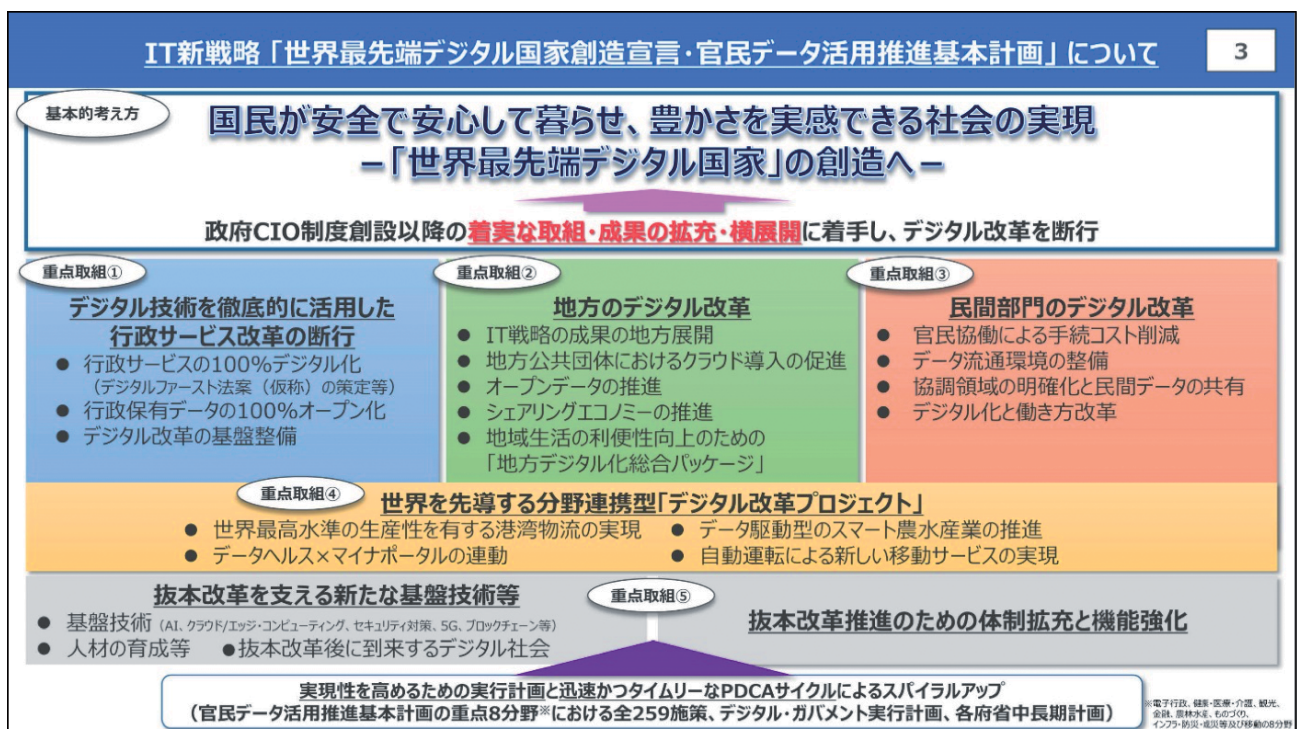


図1 世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画の基本的考え方と重点取組

出典元：政府CIOポータル「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画の概要」（2018年6月）

2. 介護ワンストップサービスについて

前述のように政府では、行政手続のオンライン化により、時間・場所を問わず、Web サイト上でサービスの検索から申請が可能となるワンストップサービスを推進しています。介護ワンストップサービスは、介護サービスを受ける本人や家族の不安の軽減並びに行政手続を申請する者の手続に係る負担が軽減するとともに、ケアマネジャー等の介護に従事する方の負担軽減が図られ、介護サービス利用者への自立支援や重度化防止等に向けた支援への注力を期待した取り組みです。（図2）

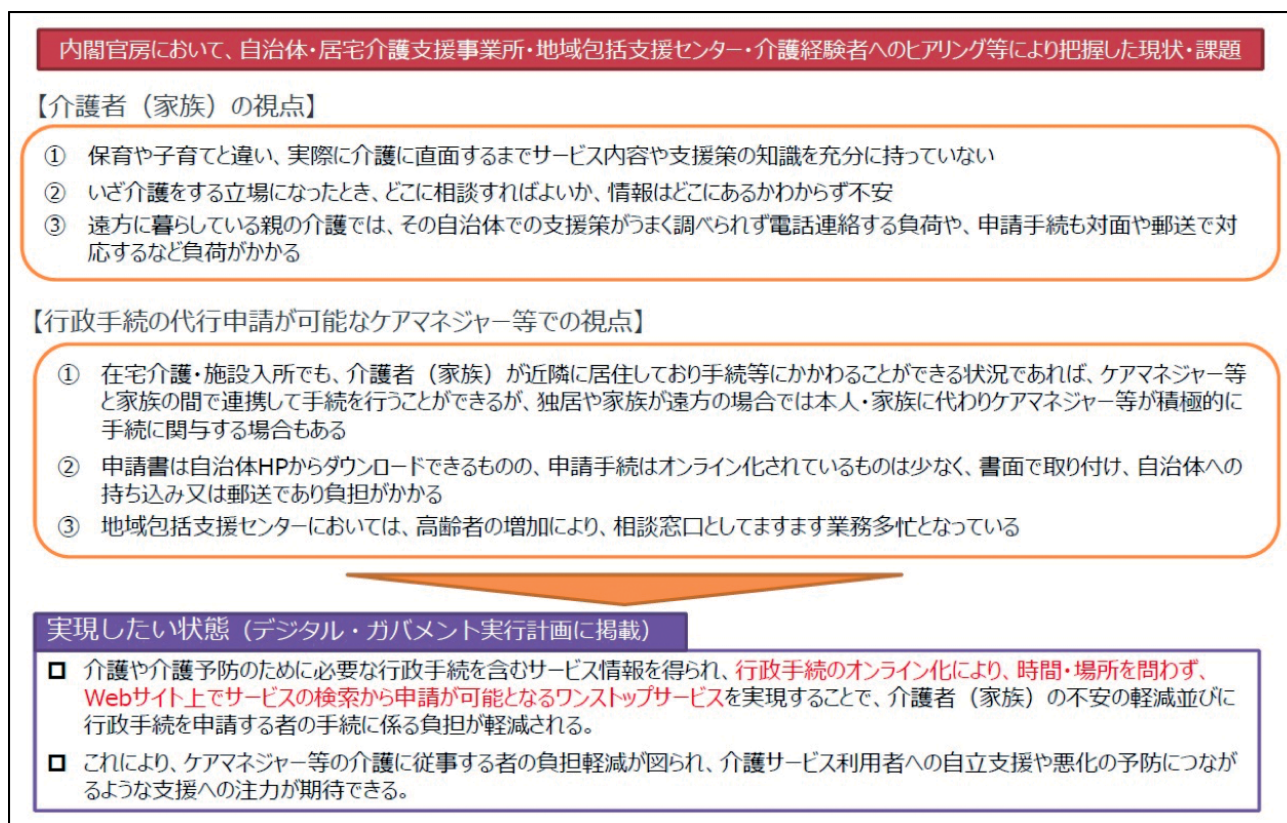


図2 介護に関する現状と課題及び実現したい状態

出典元：第33回新戦略推進専門調査会電子行政分科会 第15回規制制度改革ワーキングチーム
第18回各府省情報化専任審議官等連絡会議 合同会議 資料3-2（2018年3月30日）

対象となる介護保険手続は、2018年3月に開催されたサービスデザインワークショップにて、実務担当者（自治体、関係業界）、関係省庁担当者が意見を出し合った結果、申請件数が概ね年間10万件以上の手続が候補として挙げられ、次の手続がサービス提供される見込みです。

①要介護・要支援認定申請（新規・更新・区分変更）、②居宅（介護予防）サービス計画作成（変更）依頼の届出、③負担割合証の再交付申請、④被保険者証の再交付申請、⑤高額介護（予防）サービス費の支給申請、⑥介護保険負担限度額認定申請、⑦居宅介護（介護予防）福祉用具購入費の支給申請、⑧居宅介護（介護予防）住宅改修費の支給申請、⑨住所移転後の要介護・要支援認定申請

3. システムの実現方法について

介護ワンストップサービスは、2017年7月よりサービス開始された子育てワンストップサービスにて既に利用されている、マイナポータルの「ぴったりサービス」を活用して、サービス検索や電子申請を行うことができる予定です。（各自治体毎に2019年3月より順次開始）

なお、前述の介護ワンストップサービスで提供可能な9種類の介護保険手続のうち、どの手続を電子

申請可能にするかは、地域事情に合わせて各自治体毎に決められます。

電子申請時は、マイナンバーカードの署名用電子証明書を利用した電子署名を必要とするため、事前にマイナンバーカードを準備しておく必要があります。

申請の手順は、以下の通りです。(図3)

- ①パソコンやスマートフォンのWebブラウザで「ぴったりサービス」サイトを表示し、申請先の自治体と申請手続を選択して、手続方法・必要書類を確認する。
- ②電子申請画面の申請フォーマットに申請内容を入力し、必要書類の画像やPDFファイルを添付する。
- ③マイナンバーカードの電子署名を添付して申請する。

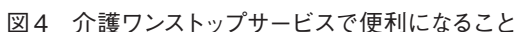
なお、必要書類によっては別途郵送になる場合もあります。マイナンバーカードの読取りに対応した、パソコン用の適合性検証済みICカードリーダー一覧とスマートフォン機種一覧は、地方公共団体情報システム機構の公的個人認証サービスポータルサイトに掲載されています。

利用例としては、ケアマネジャーが要介護・要支援認定申請（更新・区分変更）を行う際に、毎月月初に申請書を持って自治体窓口に行かなくても、事業所のパソコンで申請ができることになるため、働き方改革の一環にもなると考えられます。同一市内に地区毎に分かれた自治体窓口がある場合に、「一人ケアマネ」のような事業所であれば、移動時間節約が大きなメリットとなります。また自宅から外出する時間が限られるご家族等も有効に活用できます。(図4)



図3 介護ワンストップサービスのイメージ図

(※) LGWAN (Local Government WAN/ 総合行政ネットワーク) : 地方公共団体を相互に接続する行政専用のネットワーク



4. 福祉システム委員会としての取り組み

図3の「ぴったりサービス」から自治体へ提供される電子申請情報（インタフェースファイル）については、自治体側の介護保険事務処理システムの観点にて、項目の過不足がないか整理・確認を行い、関係省庁に情報提供を行っています。

具体的には、以下の流れで確認しています。

- ①自治体が「ぴったりサービス」の電子申請機能に事前登録する介護保険手続の申請書を入手する。
- ②自治体毎に若干異なる申請様式の項目差異を、整理・確認する。
- ③「ぴったりサービス」の電子申請機能にて自治体へ送信される申請情報のインタフェース項目が過不足無く、連携先の介護保険事務処理システム上問題が発生しないか確認する。

5. おわりに

昨今、銀行口座の開設も手元のスマートフォンだけでできるICT技術が発展している中、政府のワンストップサービスは、民間サービスとの連携も視野に入れながら、死亡・相続、引越しに関する行政手続等を追加サポートする計画となっており、国民にとって身近なデジタル・ガバメントサービスに成長していくと考えられます。

福祉システム委員会は、今後も社会保障分野における行政手続を"デジタル"面で後方支援（業界標準化支援）していきます。

教育事業「勉強会」について

教育事業委員会 委員長
(株)NTTデータ

三田村 一治 Mitamura Kazuharu



JAHIS会員の皆様には、平素より事業推進部教育事業の運営に大変ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。事業推進部教育事業委員会の委員長を務めておりますNTTデータの三田村と申します。

教育事業委員会としては、「医療情報システム入門コース」等の教育コースを実施させていただいておりますが、JAHIS会員様へのサービス向上を図る目的で、一昨年度からの継続取り組みとして、昨年度も4回にわたり「JAHIS勉強会」を実施させていただきました。その「JAHIS勉強会」の模様をご報告させていただきます。

1. 「医療関係者対応ビジネスマナー」の活動状況

・開催日：2018 / 7 / 27 午前	定員：30名	受講者：29名	場所：JAHIS会議室
2018 / 7 / 27 午後	定員：30名	受講者：30名	場所：JAHIS会議室

昨年に引き続き医療業界に実務経験のある講師として片居木先生をお招きし、新入社員、2年目社員及び医療業界に所属して間もない方に対し、午前と午後の2回開催いたしました。実務経験を活かした説得力ある講義をしていただくとともに、対話形式での受け答えのやり方を実践したり、医療分野のお客様との様々な場面を想定したロールプレイング形式での実践練習をしたりして、受講者の方々に実践さながらの現場で活用できる内容となっております。



2. 「データ利活用①」の活動状況

・開催日：2018 / 9 / 7 午後 定員：90名 受講者：94名 場所：JAHIS会議室

勉強会「データ利活用①」に関しては、3名の著名な方にご講演いただきました。最初に一般社団法人医療情報システム開発センター理事長の山本様より「医療等分野の識別子（ID）やNDB・介護DB・その他公的データベースの連結に関する方向性等、データ利活用の現状と今後について」と題して、様々なDBの連結に関する方向性とその活用の現状と課題について丁寧にご解説いただきました。次に独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）医療情報活用部MID-NET運営課課長の山口様より「MID-NETの本格稼働現状と信頼性について」と題して、MID-NET事業の仕組みや進捗状況のご説明を伺いました。最後に独立行政法人国立病院機構本部情報システム統括部副部長の渡辺様より、「国立病院機構が推進されている診療情報集積基盤（NCDA）におけるデータ利活用の現状と今後について」と題して、事業の背景や成果についてご講演をいただきました。データの活用に関する会員の方々の関心の高さを伺えるものとなりました。



3. 「データ利活用②」の活動状況

・開催日：2018 / 11 / 30 午後 定員：90名 受講者：93名 場所：JAHIS会議室

データ利活用に関するテーマは会員の方々の関心が非常に高いことを反映して、勉強会「データ利活用①」に引き続き勉強会「データ利活用②」を開催いたしました。最初に一般社団法人医療情報システム開発センター理事長の山本様より「医療情報のデータ利活用の現状と今後」と題して、世の中の医療分野のデータ利活用の現状と課題や次世代医療基盤法等についての解説をいただきました。次に経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課課長の西川様より「生涯現役社会の実現に向けて」と題して、経済産業省の生涯現役社会に向けた仕組み作りとデジタルヘルスケアの事業の推進等のお話をいただきました。最後に京都大学医学部附属病院医療情報企画部教授の黒田先生より、「京大病院における利活用できるデータの作り方」と題して、データから見えてくるもの、データと繋がったAIがもたらすもの等のご講演をいただきました。データの活用に関して非常に将来性のあることを会員の方々も感じたと思います。



4. 「先端技術動向（AI、ブロックチェーン）」の活動状況（予定）

・開催日：2019 / 3 / 8 午後 定員：90名 受講者：94名 場所：JAHIS会議室

勉強会「先端技術動向（AI、ブロックチェーン）」では、まず、岐阜大学大学院医学系研究科医療情報学分野教授の紀ノ定先生より、「データ活用とAI化への道しるべ」と題して、医療分野のデータ活用とAI化を推進する方向性を解説いただきます。次に日本アイ・ビー・エム株式会社ヘルスケア・ライフサイエンス事業部ヘルスケア分野スペシャリストの小林様より、「ヘルスケア分野におけるブロックチェーンの課題と未来」と題して、ヘルスケア分野におけるブロックチェーンの活用の考え方や課題を整理してご講演をいただきます。最後に帝京大学医療情報システム研究センター教授の澤先生より、「AIを活かす医療情報システムはどうあるべきか」と題して、医療分野におけるAI活用の課題を整理して解説いただきます。3 / 8開催予定ですが、すでに満員となっており、今から勉強会が楽しみとなっております。

5. 最後に

どの勉強会も非常に好評で、ほぼ満席となっており、講義後のアンケートにおいても役に立つと回答いただいた割合が9割を超えており、非常に有意義であったと評価をいただいております。今後のテーマについてですが、教育事業委員会では、一昨年度に会員各社殿の教育窓口の方をご登録いただいておりますが、この方々を対象に今後の勉強会のテーマを募集しようと考えています。広く会員各社殿の要望を募り、今後の勉強会について皆様の期待に応えられるものになりたいと思います。こちらについてもご協力のほどよろしくお願いいたします。

JAHIS会員の方のサービス向上のために、教育事業委員会は活動しております。教育という立場で、少しでも会員の方の役に立つ情報を提供できるように努力して参りますので今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

運営状況報告

会誌第63号（2018年10月発行）から本誌発行までに開催された理事会・運営会議・総務会の会議内容について審議事項を中心にご紹介いたします。JAHISの活動方針が決まる経緯をご理解いただくとともに、戦略企画部の運営幹事を始めとするメンバーが、さまざまなJAHIS活動の重責を担っている様子を読み取っていただければ幸いです。

併せて、現在の会員数状況をご報告いたします。

■ 2018年度会員数状況(2019年3月31日現在)

会員種別	A	B	C	D	E	F	計
2018年9月1日	7	4	9	20	129	209	378
入会	0	0	0	0	2	0	0
退会			0		0	1	0
種別変更	0	0	0	0	0	0	0
2019年3月31日現在	7	4	9	20	131	208	379

理事会

2018年度第2回定例理事会及び第67回～第69回の書面理事会が開催されました。それぞれの審議結果は次のとおりです。

2018年度第2回定例理事会

開催日時：2019年2月27日（水） 午前10時00分から11時30分まで

場所：JAHIS事務所 第1、第2、第3会議室

出席：理事11名 監事2名

議案：第1号議案 会員種別変更の件

承認

日本アイ・ビー・エム(株) A会員 → B会員

報告事項1 2018年度 第1・2・3四半期の活動状況報告

報告事項2 2019年度（平成31年度）事業計画書（案）の報告

報告事項3 第1回定例理事会の開催時期変更の件

第67回書面理事会（2018年9月14日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)アクトシステムズ

E会員 紹介 タック(株)

マネージメントサービス(株)

E会員 紹介 (株)ピーエムソフト

第68回書面理事会（2018年11月14日開催）

議案：第1号議案 副会長1名の選定の件

承認

富士通(株) 石井雄一郎 辞任

富士通(株) 前田達也 選定

第69回書面理事会（2019年3月14日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)Omi Medical

F会員 紹介 東日本メディコム(株)

日本医師会 ORCA 管理機構(株)

E会員 紹介 (株)NTT データ

ニュータニックス・ジャパン合同会社

E会員 紹介 (株)ソフトウェア・サービス

(株)パシフィックシステム

F会員 紹介 日本アイ・ビー・エム(株)

以上

運営会議状況報告(平成30年9月18日(火)～平成31年2月19日(火))

2018年度 第6回運営会議議事録

＜日時＞：2018年9月18日（火）15:00～17:10

＜場所＞：JAHIS第1～第3会議室

（1）対外活動申請

- ①医療情報学連合大会共催 三菱電機展示ルームセミナー「地域医療連携等における医療情報等の標準化等について」への講師派遣について、事業企画推進室より、吉村仁室長を派遣することが承認された。
- ②医療情報学連合大会HELICSチュートリアルである「標準規格の普及度について考える」への講師派遣について、標準化推進部会 普及推進委員会より岩津聖二氏を派遣することが承認された。
- ③「IHE-RAD 国際会議及びWeb会議対応」について、相互運用性委員会 データ互換性専門委員会 HIS-RIS WGより塩川康成氏を派遣することが承認された。

- （2）厚生労働省「電子処方箋の実証事業（仮称）」への取り組みについて、厚生労働省 医薬・生活衛生局が実施する予定の「電子処方箋の実証事業（仮称）」について公示後、事業内容を確認の上、電子投票（日程により次回運営会議）にて、JAHISとして応募することと、会員各社に協力をお願いすることについて審議を行うことについて承認された。

2018年度 第7回運営会議議事録

＜日時＞：2018年10月16日（火）15:00～17:10

＜場所＞：JAHIS第1～第3会議室

（1）対外活動申請

- ①日本医療機器産業連合会 法制委員会 法改正関連要望検討WG及び医療機器プログラムWGへのオブザーバ参加について、医機連委員会・WGにオブザーバ参加し、医療機器プログラムに関する法規制情報収集や規制に対してJAHISとしての意見・情報発信を行う。また法規制情報を事前に得ることで、医療情報システムが必要以上に規制下にならないよう働きかけることが承認された。

活動メンバはヘルスソフトウェア対応委員会より以下。

- ・法改正関連要望検討WG：谷口 克巳（富士通）、金光 暁（富士通）、
小掠 真貴（NEC）
- ・医療機器プログラムWG：谷口 克巳（富士通）、黒野 満夫（JAHIS）、
前田 宗泰（日本IBM）

- ②「第4回 協働の会への演者派遣」について、セキュリティ委員会より、茗原秀幸委員長を派遣し、医療分野のIoTセキュリティ／サイバーセキュリティについて説明することが承認された。
- ③医療情報学連合大会での会場運営支援の件について、G会場の運営支援（11月23日（金）～25日（日））を行うことが承認された。

- (2) 厚生労働省 医薬・生活衛生局が実施する「電子処方箋の本格運用に向けた実証事業一式」に、JAHISとして応募することを前提に、事業の実施にあたり業務の再委託等の協力を会員各社に依頼することについて承認された。なお、応募に関する審議は11月度の運営会議にて審議を行う。

会員会社への協力依頼内容は以下のとおり。

1) 会員各社への協力依頼の内容：

- ①実証実験業務のプロジェクトマネジメント
- ②実証実験用プロトタイプシステムの開発、実証実験実施、結果の取り纏め
 - a) 電子処方箋を発行し、調剤結果を受信する医療機関システム
 - b) 電子処方箋をダウンロードし、調剤結果を発行する薬局システム
 - c) 電子処方箋・調剤結果の管理を行うASPシステム

- (3) 標準化推進部会 副会長交代について、(コニカミノルタ 高野 博明 氏 → コニカミノルタ 伊藤 毅 氏へ交代) 承認された。

- (4) 医事コンピュータ部会 部会長の交代について (PHC 高橋 祐一 氏 → PHC 船橋 一宏氏へ交代) 承認された。

- (5) 医事コンピュータ部会 介護システム委員会の副委員長交代について (ワイズマン (Dランク) 田邊 純氏) 承認された。交代時期は11/1。

2018年度 第8回運営会議議事録

<日時>：2018年11月20日（火）15:00～17:30

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

(1) 対外活動申請

- ①ニューメディア開発協会「生涯健康管理に関する研究会および生涯健康管理情報システム検討作業部会」への活動として、2018年には在宅医療や訪問看護など多職種連携に関係したテーマを取り扱うため、多職種連携WGより光城元博リーダを、活動者として追加することが承認された。(当案件は2017年5月の運営会議で承認され、黒野満夫事業企画推進室副室長が活動中)
- ②国際医学生連盟 日本支部 (IFMSA-Japan) からの「[医学生向け集中講義&討論会]医療×ブロックチェーンの未来を考える」の講演依頼について、中光敬戦略企画部長と小林俊夫運営幹事が、EHRの現状・日本における医療情報の取り扱い・PHRの現状に関する講義、ならびにパネルディスカッションへ参加することが承認された。
- ③経済産業省が発行した「医療情報を受託する情報処理事業者の安全管理ガイドライン」の改定検討のための委員会の構成員派遣について、セキュリティ委員会から茗原委員長を派遣することについて頭出しがあった。正式な依頼書が来ていないため、来次第判断することとし、派遣が必要な場合、委員会開催日を考慮し、医療システム部会、運営会議での承認は必要に応じて電子投票を行う旨を承認した。

- (2) 厚生労働省事業「電子処方箋の本格運用に向けた実証事業一式」への取り組みとして「一気通貫の在宅医療」の阻害要因とされている「電子処方せん」の運用ガイドライン(運用GL)の見直しを行い、新運用フローをとりまとめ、実現可能であることの実証を行うこととした、実証事業

へ入札対応を行うことが承認された。

- (3) JAHIS 事務局長の雇用延長について、鈴木義規事務局長の1年雇用延長が承認された。契約期間は2018/12/1～2019/11/30

- (4) 25周年記念名刺の作成ならびに配布について承認された。配布先は、グループ1として、理事・部会長・副部会長・会長・副会長・委員長・副委員長・事業企画推進室メンバ。グループ2として、グループ1メンバの推薦者とした。

- (5) 平成30年度下期予定の会計システムの機能追加について承認された。

機能追加の目的は、①使用実績確認の効率化（一覧表印刷）として、支払依頼書の一覧印刷。②パッケージソフトへの直入力（カスタマイズ部での未対応項目）の削減として、預り金・未払金支払、固定資産支払、仮受金消込。③手作り会計監査資料の削減として、未精算仮払、未入金管理、未収金管理の機能追加を行う。

- (6) 有期契約社員の無期契約社員化について、無期契約社員化の実施（就業規程含む関連規程の施行の承認）、給与/賞与決定プロセスについて承認された。今後の予定は以下。

2018/12：運営会議で決定された「給与/賞与決定プロセス」に従い、給与テーブル及び賞与テーブルを決定

2019/1/8：戦略企画部会議で無期契約社員の採用可否を協議

2019/1/22：運営会議で無期契約社員の採用可否を審議

2019/2：運営会議で決定された「給与/賞与決定プロセス」に従い、個人別の資格/基本給を決定
2月末：労働契約書締結（契約者：JAHIS 及び労働者）

2019/4/1：無期契約労働者として勤務開始

- (7) 電子投票結果1件の報告

①平成30年度厚労省老健局「介護事業所におけるICTを活用した情報連携に関する調査研究事業」への委員派遣について、投票期間2018/11/2～11/7にて実施し、賛成：38名（議長を除く）、反対：0名、棄権：0名の投票結果となり、議長を除く総議決権数の3分の2以上の賛成を満し、保健福祉システム部会より金本昭彦福祉システム委員長、医事コンピュータ部会より畠山仁介護システム委員長を派遣することが承認されたことについて報告された。

2018年度 第9回運営会議議事録

<日時>：2018年12月18日（火）15:00～17:00

<場所>：JAHIS 第1～第3会議室

- (1) 対外活動申請

①厚労科研「医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究」研究班からのディスカッション依頼について、電子カルテ委員会より、井上貴宏委員長、岡和彦副委員長、新垣淑仁副委員長、同委員会患者安全ガイド専門委員会より高山和也専門委員長の参加が承認された。また、ディスカッションの位置づけであり、必要の都度、運営幹事等の参加も可能であることが補足された。

②「次世代医療機器開発推進協議会」構成員登録の件について、今後技術の進展によりソフト

ウェアの医療機器が開発・普及していくことが見込まれるため、同会議に出席し、IoTやAI等の観点から意見を述べるため、JAHIS岩本敏男会長を構成員として登録することが承認された。

- ③「遠隔ICUに関する調査研究」研究協力者派遣について、研究協力者としてヘルスケア分野の情報セキュリティの専門家の見地から助言を行う必要があることから、セキュリティ委員会から茗原秀幸委員長を派遣することが承認された。

- (2) 定例理事会の開催時期見直しについて、現状では定例理事会と定時社員総会を同日に実施していたが、計算書類等を承認するための定例理事会を少なくとも2週間前までに実施する必要があることから、定例理事会開催時期の見直し（6月の定例理事会を4月末～5月中旬に移動）することについて協議を行い、そのスケジュールで進めることとした。また、2019年度においては会長のスケジュールの都合から、2019年5/7（火）～10（金）の開催で調整することとした。

(3) 電子投票結果2件の報告

- ①「医療情報を受託する情報処理事業者の安全管理ガイドライン」改定委員会の委員就任依頼について投票期間2018/12/4～12/6にて実施し、賛成：39名（議長を除く）、反対：0名、棄権：0名の投票結果となり、議長を除く総議決権数の3分の2以上の賛成を満し、セキュリティ委員会より茗原秀幸委員長が参加することが承認されたことについて報告された。
- ②「関西学院大学 人間福祉学部 講座「人間福祉情報論」でのゲストスピーカーの件」について投票期間2018/12/05～12/07にて実施し、賛成：38名（議長を除く）、反対：0名、棄権：0名の投票結果となり、議長を除く総議決権数の3分の2以上の賛成を満し、福祉システム委員会より金本昭彦委員長が参加することが承認されたことについて報告された。

2018年度 第10回運営会議議事録

<日時>：2019年1月22日（火）15:00～17:10

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

(1) 対外活動申請

厚労科研「医療事故の再発防止策が実践されるための促進要因・阻害要因の研究」への協力依頼（国際医療福祉大学土屋教授からのご依頼）について、厚労省への提出資料として本研究へ協力する旨の同意書が必要なことから、本研究への協力に同意することが承認された。なお、具体的な活動については本研究採択後、別途対外活動申請を行うこととした。

- (2) 日本IBM殿より、2019年4月付にてA会員からB会員へランク変更したいとの申し入れに対して、2月の定例理事会で承認されることを前提に、2020年6月（社員総会）までの総務会関連体制はこのまま日本IBM殿に継続して運営をお願いすることが承認された。またB会員会社が部門を担う場合、円滑な運営を考慮すると、会社から運営幹事及び事務局部長を選任するため、関連規程について見直し（表現の変更）を行うこととした。

- (3) PHR協会からの、講演会「個人健康管理基盤としてのPHRのあり方と活用への期待」（2019/2/27開催予定）の周知依頼について、JAHIS会員あてに周知することが承認された。

- (4) 無期契約社員の採用可否について、JAHIS規程5028号就業規程の第3条に基づき、3名の無期契約社員（規程第1条記載の労働者）として採用することが承認された。

2019年4月1日より無期契約社員として勤務する。

(5) 事業企画推進室副室長の契約延長について、黒野満夫事業企画推進室副室長の雇用契約を延長することが承認された。契約期間は2019/4/1～2020/3/31（1年）

(6) 総務会事務局部長の契約延長について、谷口浩一事務局部長の雇用契約を延長することが承認された。契約期間は2019/4/1～2020/3/31（1年）

(7) 2018年度表彰候補者の推薦と選考会について進めていくことが承認された。

3月末までに各部会から候補者名と推薦理由を選考会議へ提出、4/9選考会開催。

なお、候補者対象基準については、明確なOUTPUTが出ており完了又は完成しているものとし、作業継続中である対象者は原則除く。

(8) 対外活動申請により外部講演した内容のセミナー化の検討を行うために、「JAHIS対外活動に関する申請／承認書」に、「＊対外講演・発表を行う場合、その内容は会員向けセミナーとしても有効か①有効②有効ではない、＊対外講演・発表した資料は、会員向けに公開可能か①可能②望ましくない」を追記することについて、各部門からの意見を聞く必要があることから、各部門に持ち帰り意見を取りまとめることとした。

(9) 電子投票結果1件の報告

「HL7 FHIR検討について（対外活動申請・特別委員委嘱願い）」、投票期間2019/1/17～1/21にて実施し、賛成：33名（議長を除く）、反対：0名、棄権：0名の投票結果となり、議長を除く総議決権数の3分の2以上の賛成を満たし承認されたことが報告された。特別委員は平井正明氏。活動者は、特別委員とSS-MIX2仕様策定TFより、下邨雅一氏、木村雅彦氏、窪田成重氏、山口慶太氏、千葉信行氏、また、地域医療システム委員会からの参加メンバ調整中。

2018年度 第11回運営会議議事録

<日時>：2019年2月19日（火）15:00～17:20

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

(1) 対外活動申請

①第39回医療情報学連合大会、中川大会長（富山大学附属病院）より協力依頼があった医療情報学連合大会について、JAHIS「学術大会等への支援作業について（基本方針案）」に則り、支援を行うことが承認された。支援内容・活動者は、①プログラム委員（査読）医療システム部会 高橋運営幹事、②実行委員（会場運営）事業推進部 真野運営幹事・吉野事務局部長・安田事務局担当を派遣する。

②オンライン診療の意見交換への委員派遣について、電子カルテ委員会より井上貴宏氏・岡和彦氏・新垣淑仁氏（病院電子カルテ）、高山和也氏・渡邊克也氏・藤田勉氏（診療所電子カルテ）の委員派遣について承認された。

(2) 2019年2月27日（水）10:00～11:30、JAHIS会議室にて開催される、第2回定例理事会内容（スケジュール・進行・審議報告資料一式）について承認された。

(3) 国際標準化団体への学識経験者の海外派遣に関する暫定予算執行承認の件について、国際標準化団体への学識経験者（澤智博先生、木村通男先生）の海外派遣ならびに予算執行について承認

された。

- (4) 戦略企画部からの特別委員委嘱の件について、橋詰明英氏（ヘルスソフトウェア対応委員会）、長谷川英重（保健医療福祉情報基盤検討委員会）の委嘱について承認された。委嘱期間は2019/4/1～2020/3/31。なお報酬の表記方法について、経理担当が次回戦略企画部会議に報告し統一することとした。（標準化推進部会、医療システム部会からの特別委員委嘱承認願いも同様）
- (5) 標準化部会からの特別委員委嘱承認の件について、喜多紘一氏（安全性・品質企画委員会）、橋詰明英氏（安全性・品質企画委員会）、長谷川英重氏（国際標準化委員会）、平井正明氏（国際標準化委員会）の委嘱について承認された。委嘱期間は2019/4/1～2020/3/31。
- (6) 医療システム部会からの特別委員委嘱承認の件について、喜多紘一氏（セキュリティ委員会）、中村茂之氏（セキュリティ委員会）、長谷川英重氏（セキュリティ委員会）、平田泰三氏（セキュリティ委員会）、鈴木一洋氏（検査システム委員会 放射線治療WG）、平井正明氏（SS-MIX2仕様策定TF）の委嘱について承認された。委嘱期間は2019/4/1～2020/3/31。
- (7) 対外活動申請により外部講演した内容のセミナー化を検討するために、対外申請書にその旨を追記する件について、対外活動申請により外部講演した内容が、会員全体に対しても有益な情報が多いのではないかとので、対外活動申請書にその旨を記載する件について承認された。記載内容は以下。

■起案組織における検討の結果または意見等の欄

* 対外講演・発表した資料は、会員向けに公開可能か

①可能 ②範囲を限定して可能 ③不可

* 対外講演・発表を行う場合、その内容は会員向けセミナーとしても有効か

①有効 ②有効ではない

■欄外

対外講演・発表資料の公開、および、セミナーについては、事業企画委員会より、内容の確認、今後の段取り等、調整させて頂くことがあります。

今後、総務会にて、規則5013号の改訂を行う。

(8) 電子投票結果1件の報告

- ①医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）における「口腔診査情報標準コード仕様審査委員会」への委員派遣依頼については、投票期間2019/2/6～2/12にて実施し、賛成：35名（議長を除く）、反対：0名、棄権：0名の投票結果となり、議長を除く総議決権数の3分の2以上の賛成を満たし承認されたことが報告された。活動者は、歯科システム委員会から西田潔委員長。

総務会

総務会の主な審議事項の要旨をご紹介します。協議事項・報告事項は割愛し、審議事項のみをご紹介します。

2019年度 第6回総務会

【日時】2018年9月11日（火） 15：00～16：10

【場所】JAHIS 第5会議室

(1) 今回は審議事項なし。協議事項・報告事項のみとなった。

2019年度 第7回総務会

【日時】2018年10月12日（金）13：00 ～ 2018年10月13日（土） 11：00

【場所】レクトーレ湯河原

(1) 今回は審議事項なし。協議事項・報告事項のみとなった。

(2) 合宿により、2019年度総務会事業計画、25周年記念名刺や同記念イベント等を検討した。

2019年度 第8回総務会

【日時】2018年11月19日（月）15：00～18：00

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) 事務局長の雇用延長について

鈴木事務局長の雇用延長について審議をし、原案どおり雇用延長が承認された。

(2) 無期雇用社員化の規程案

「有期雇用社員の無期雇用社員化」に関する規程（案）類について審議をし、運営会議での「無期契約社員化の実施」及び「給与／賞与決定プロセス」の承認を付帯条件として、「就業規程案」、「退職金規程案」、「育児・介護休業等に関する規程案」及び「JAHIS 規程5006号職員就業規程改訂案」が原案どおり了承された。

(3) JAHIS 所有PC/JAHIS イン트라ネット/JAHIS 執務環境使用申請書

岡氏（岸部長の後任）が事務局内にて使用するパソコン、イン트라ネットの利用許可申請について審議をした。その結果、総務会としてこれを了承し、総務会長が承認することとなった。

(4) JAHIS 規則3001号、3002号の改定について

標準化推進部会から提案された2つの規則改定案を審議した。その結果、メンバーより出たコメントを踏まえて中村法務部長にて更に検討を加えた後、メールで総務会メンバーにて内容を確認。その後、同部長より標準化推進部会に提示することとなった。

(5) 会計システムの機能追加

会計システムの機能追加について審議をし、原案どおり了承された。

(6) 平成30年度下期システム対応内容

平成30年度下期のシステム対応内容について審議をし、原案どおり了承された。

(7) 新規入会の推薦について

新規入会申込に関し、総務会幹事会社の推薦による承認の是非について審議した。その結果、「推薦会員がいない入会申込みでは、総務会幹事会社が推薦すること」が明文化されているか確認し

明文化されていない場合には、今回の申込みについては「取引先のJAHIS会員企業からの推薦」を申し入れることとなった。

2019年度 第9回総務会

【日時】2018年12月05日（水）15：00～17：35

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) 2019年度総務会・事務局事業計画予算案について

2019年度総務会及び事務局の事業計画・予算案について審議し、一部修正の上了承された。

25周年記念イベントの費用の予算計上については総務会案を策定し、運営会議にて審議することとした。

(2) 2019年1月4日のJAHIS事務所の閉鎖について

2019年1月4日（金）をJAHIS事務所の閉鎖日とする件を審議し、原案どおり承認された。

2019年度 第10回総務会

【日時】2019年1月23日（水）15：00～17：35

【場所】「会議するなら」新橋 8A会議室

【審議事項】

(1) 競争法コンプライアンス規程改訂について

(2) 競争法コンプライアンス実施細則改訂について

(3) 有期契約労働者就業規程改訂について

上記3件の改訂について審議した。その結果、意見がある場合は、(1)、(2)については1月30日（水）、(3)については2月4日（月）を期限として事務局まで提示することとした。期日までに意見がない場合には、総務会として上記3件の改訂を承認することとした。

(4) 2018年度表彰候補者の推薦と選考会について

6月の総会における総務会の表彰候補者の推薦を審議した結果、総務会からの候補者推薦は見送ることとなった。

2019年度 第11回総務会

【日時】2019年2月15日（金）14：30～16：45

【場所】「会議するなら」新橋 8C会議室

【審議事項】

(1) JAHIS標準類制定規程改定案について

JAHIS規程3001号及び同3002号の改訂について審議した結果、原案どおりこれを承認した。次回の戦略企画部会議に報告し、異議がなければ2月15日（金）に遡及して発効することとなった。

(2) JAHISシステムの西暦対応について（支出承認依頼）

JAHISシステムの西暦表記対応に必要な改修費用の支出について審議した結果、支出及び改修を現行ベンダーに委託する件につき、原案どおり承認した。

委員派遣ならびに協賛・後援(2018年9月～2019年2月承認)

【委員派遣】

1. 厚生労働省

「介護事業所におけるICTを活用した情報連携に関する調査研究事業」委員

(2018年11月8日～2019年3月31日)

福祉システム委員会委員長

金本 昭彦

介護システム委員会委員長

畠山 仁

2. 厚生労働省

「遠隔ICUに関する調査研究」研究協力者

(2018年12月18日～2019年3月31日)

セキュリティ委員会委員長

茗原 秀幸

3. 厚生労働省

「医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究」研究班

(2019年1月4日～2019年3月31日)

電子カルテ委員会

井上 貴宏

電子カルテ委員会

岡 和彦

電子カルテ委員会

新垣 淑仁

電子カルテ委員会

高山 和也

4. 経済産業省

「医療情報を受託する情報処理事業者の安全管理ガイドライン」改定検討のための
委員会委員

(2018年12月6日～2019年3月31日)

セキュリティ委員会委員長

茗原 秀幸

5. 総務省

「総務省事業 オンライン診療の普及促進に向けたモデル構築にかかる調査研究の為の
意見交換」委員

(2019年2月末～2019年3月上旬)

電子カルテ委員会

井上 貴宏

電子カルテ委員会

岡 和彦

電子カルテ委員会

新垣 淑仁

電子カルテ委員会

高山 和也

電子カルテ委員会

渡邊 克也

電子カルテ委員会

藤田 勉

6. HELICS協議会

「口腔審査情報標準コード仕様審査委員会」委員

(2019年2月13日～2019年7月31日)

歯科システム委員会委員長

西田 潔

7. IHE－RAD

「国際会議及びWeb会議対応」委員

(2018年9月18日～期限なし)

メッセージ交換専門委員会

塩川 康成

【協賛等】

- (1) 国際モダンホスピタルショウ2018 (協賛)
2018年7月11日(水)～7月13日(金)
- (2) 日本医用画像工学会
第37回日本医用画像工学会大会 (後援)
2018年7月25日(水)～27日(金)
- (3) HIMSS AsiaPac18 (開催地：オーストラリア/ブリスベン) (後援)
2018年11月5日(月)～11月8日(木)
- (4) 一般社団法人全国公私病院連盟
第30回 国民の健康会議 (協賛)
2018年10月3日(水)
- (5) 特定非営利活動法人 ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム
ASPIC IoT・クラウドアワード2018 (後援)
2018年11月6日(火)
- (6) 一般社団法人日本医療福祉設備協会、および、一般社団法人日本能率協会
HOSPEX Japan 2018 (協賛)
2018年11月20日(火)～2018年11月22日(木)
- (7) 一般社団法人日本医療福祉設備協会
第47回日本医療福祉設備学会 (協賛)
2018年11月20日(火)～11月21日(水)
- (8) メディカルジャパン (後援)
2018年9月12日(水)～9月14日(金) 会場：東京
2019年2月20日(水)～2月22日(金) 会場：大阪

会員窓口宛と全員宛てメール

2018年8月28日～2019年2月25日

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
32	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T442の送付について	2019年2月25日
31	窓口	(再)「国際モダンホスピタルショウ2019」へのご協力をお願い	2019年2月25日
30	窓口 全役職者	医療安全情報等の共有（2019年No. 2）について	2019年2月19日
29	窓口 全役職者	医療安全情報等の共有（2019年No. 1）について	2019年2月15日
28	窓口	「国際モダンホスピタルショウ2019」へのご協力をお願い	2019年2月18日
27	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第231号	2019年2月14日
26	全員	【再案内】「平成30年度日本医師会医療情報システム協議会」のお知らせ	2019年2月14日
24	全員	2019年度JAHIS教育コース開催のご案内	2019年2月4日
23	窓口	【ご案内】2019年度の会費ご請求及び会員種別変更について	2019年2月4日
22	医療シス テム部会	【お知らせ】未来健康検査情報研究会からの講演会ご案内	2019年2月1日
21	窓口 全役職者	【お知らせ】厚生労働省から「Windows7等のサポートが終了することに関する注意喚起についての」の周知依頼	2019年2月1日
20	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T438、T439の送付について	2019年2月1日
19	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第230号	2019年2月1日
18	窓口 全役職者	【お知らせ】厚生労働省から「サイバーセキュリティ月間」の周知依頼について	2019年1月29日
17	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2019年1月29日
16	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T437の送付について	2019年1月28日
15	窓口 全役職者	【お知らせ】厚生労働省からの周知依頼について	2019年1月24日
14	全員	【お知らせ】一般社団法人PHR協会から講演会のお知らせ	2019年1月23日
13	全員	【お知らせ】「平成30年度日本医師会医療情報システム協議会」のお知らせ	2019年1月22日
11	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2019年1月18日
10	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T436の送付について	2019年1月18日
9	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T435の送付について	2019年1月18日
8	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第229号	2019年1月18日
7	全員	【会員限定】「JAHIS勉強会」先端技術動向（AI、ブロックチェーン）開催のご案内	2019年1月15日
4	窓口 全役職者	【お知らせ】「第25回第1種ME技術実力検定試験」講習会のお知らせ	2019年1月8日

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
3	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T434の送付について	2019年1月7日
2	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T433の送付について	2019年1月7日
1	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第228号	2019年1月7日
138	窓口 全役職者	【お知らせ】「医療機器ソフトウェアセミナー」開催案内について	2018年12月25日
137	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T432の送付について	2018年12月21日
135	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T431の送付について	2018年12月21日
132	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2018年12月18日
131	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第227号	2018年12月18日
130	窓口 全役職者	【お知らせ】「HPKIに関するセミナー」開催案内について	2018年12月17日
129	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2018年12月17日
128	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第226号	2018年11月29日
127	全員	(再)「JAHIS地域医療連携セミナー」のご案内	2018年11月26日
125	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2018年11月20日
124	窓口 全役職者	【お知らせ】ICD10 対応標準病名マスターの仕様変更について	2018年11月20日
123	全員	(再)「JAHIS地域医療連携セミナー」のご案内	2018年11月19日
122	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第225号	2018年11月14日
121	窓口 全役職者	医療安全情報等の共有（2018年No. 8）について	2018年11月9日
120	全員	(再)「JAHIS地域医療連携セミナー」のご案内	2018年11月12日
118	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T429の送付について	2018年11月5日
117	全員	(再)「JAHIS地域医療連携セミナー」のご案内	2018年11月5日
116	窓口 全役職者	【お知らせ】医療セプター事務局から「医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策の強化について」	2018年10月31日
115	窓口 全役職者	【再】【お知らせ】HIMSS Asia Pac 18の案内について	2018年10月29日
114	窓口 全役職者	医療安全情報等の共有（2018年No. 7）について	2018年10月25日
113	全員	(再)「JAHIS地域医療連携セミナー」のご案内	2018年10月29日
112	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第224号	2018年10月23日

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
111	窓口	厚生労働省 電子処方箋実証事業へのご協力のお願い（再送）	2018年10月19日
110	全員	（再）「地域医療連携セミナー」のご案内	2018年10月22日
109	窓口 全役職者	医療安全情報等の共有（2018年No. 6）について	2018年10月17日
108	全員	「JAHIS地域医療連携セミナー」のご案内	2018年10月15日
107	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第223号	2018年10月12日
106	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2018年10月11日
105	窓口 全役職者	医療安全情報等の共有（2018年No. 4及びNo. 5）について	2018年10月11日
104	窓口 全役職者	【お知らせ】経済産業省からの周知依頼について	2018年10月9日
103	全員	（再）JAHIS教育「医療情報システム入門・1日集中コース」開催のご案内	2018年10月5日
101	全員	【お知らせ】GHS第7回 リスクマネジメントトレーニング講座 開催のご案内	2018年10月3日
100	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T426【全分野】キャッシュDNSサーバー の設定更新に関する注意喚起	2018年10月3日
99	全員	【会員限定】「JAHIS勉強会」（データ利活用2）開催のご案内	2018年10月1日
98	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第222号	2018年9月27日
97	全員	（再）JAHIS教育「医療情報システム入門・1日集中コース」開催のご案内	2018年9月25日
96	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T422 Office 365における フィッシング検知回避手法について	2018年9月21日
95	全員	（再）JAHIS教育「医療情報システム入門・1日集中コース」開催のご案内	2018年9月18日
94	窓口 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供 T424【全分野】Microsoft製品及 びAdobe Flash Playerの脆弱性対策について	2018年9月14日
93	窓口 全役職者	【お知らせ】HIMSS Asia Pac 18の案内について	2018年9月12日
92	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第221号	2018年9月12日
91	全員	第68回HL7セミナーのご案内	2018年9月10日
90	全員	JAHIS教育「医療情報システム入門・1日集中コース」開催のご案内	2018年9月3日
89	窓口 全役職者	【お知らせ】第2回ジャパンSDGsアワードの公募について	2018年8月30日
88	窓口 全役職者	【お知らせ】日本脳神経外科学会からの依頼について	2018年8月29日
87	窓口 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第220号	2018年8月28日

会員紹介

会誌第63号（2018年10月発行）での会員紹介以降に、本年3月末日までに2社の新しい会員をお迎えしました。入会された会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でJAHISに望むことなどについて自己紹介をしていただきます。このコーナーへ寄稿をいただいた会員の原稿を掲載します。

紹介項目

- ◆ 会社名
- ◆ 郵便番号、所在地
- ◆ 電話番号
- ◆ ホームページURL
- ◆ 会員連絡窓口の所属、役職、氏名
- ◆ 会社紹介

マネージメントサービス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピアタワー 26F

TEL：03-6269-9444(代)

URL：https://www.msc-inc.co.jp/msc/

デジタルビジネスイノベーションセンター エキスパート 窪田 次郎

マネージメントサービス株式会社は、創業してから今年で44年目を迎えております。私たちはお客様と深く長く向き合い、確かな信頼関係を築きながら、金融システムの開発を中心に事業を展開しております。

近年ではM&Aにより医療系の業務を担っているグループ企業を加えることにより、医療系システム開発を新たな事業分野として注力しております。その一つとして、弊社グループ企業のDKHでは「カラダとココロのセルフチェックステーション 健幸aiちゃん」の販売を本年6月から予定しております。健幸aiちゃんは、運動機能の測定や精神的疲労度のチェックを音声ガイダンスに従って一人で簡単に行うことができ、また測定データは、PHRとして様々な管理システムへのデータ連携が可能となります。この様な機能から、調剤薬局、病院の待合室、役所内の健康コーナー、ケアセンターや公民館などに設置して多くの方々に利用していただくことにより、地域包括ケアの一連のケアサイクルの中で地域住民の健康維持・増進に貢献いたします。

今後も、信頼される技術と誠意を持ってソリューションサービスを提供し、社会の多種多様なテーマに最適なITソリューションをワンストップでご提供いたします。

新任のご挨拶

事務局医事コンピュータ部長

岡 明男 Oka Akio



本年3月に、JAHISの事務局医事コンピュータ部長に着任いたしました岡です。前任の岸部長からの引き継ぎに伴い、昨年12月から徐々にJAHISの事務所に顔を出させていただき、2月から常駐しています。事務局の皆様を始め、関係する方々には本当に温かく迎えていただき、私が日々あたふたしながら何とか対応できているのも皆様の支えがあつてのことと感謝しております。誠にありがとうございます。

JAHISに来てまず驚いたのは、関係機関とのお付き合いの広さです。厚生労働省、社会保険診療報酬支払基金、国保中央会・連合会、日本医師会・歯科医師会・薬剤師会等の方々と日常的に接する機会があり、メールや電話で頻繁にやりとりされています。今年は5月の改元や10月の消費税増税が予定されていますが、それらに伴うシステム改修の課題や要望事項をJAHISとして取り纏めてほしい、等と依頼されることもしばしばで、JAHISへの期待と信頼の高さをひしひしと感じています。また、年末年始には関係機関の方々への挨拶周り（分刻みの弾丸ツアー）にも同行させていただき、岸前部長が笑顔でハグされる姿を目の当たりにして、これまで築かれた関係の深さを感じるとともに、引き継ぐ責任の重さを痛感いたしました。

私は、JAHISに来る前はPHC株式会社に勤務しており、入社時から長年に渡って調剤薬局様向けシステム（レセコンや電子薬歴等）の企画部門を担当してきました。新商品の企画立案やプロモーション活動、大手チェーン薬局様との折衝等の業務に携わり、診療報酬改定への対応やレセプトオンライン請求の普及推進活動等も経験しましたが、調剤に特化しておりましたので視野が狭かったように思います。

JAHISの医事コンピュータ部には、医科システム委員会・電子レセプト委員会・マスタ委員会・歯科システム委員会・調剤システム委員会・介護システム委員会・DPC委員会という7つの委員会があり、医療ICTについて広範に渡って議論されていますので、非常に学ぶことも多く、調剤專業だった私にとっては毎日が勉強です。

私には現在4歳の息子がいるのですが、彼は今、仮面ライダーと恐竜とおしりたんていに夢中です。皆さん、「おしりたんてい」はご存知ですか？顔の形が「おしり」に見える名探偵の「おしりたんてい」が、IQ1104（いいおしり）の明晰な頭脳と犯人を追いつめたときに繰り出される必殺技（とても臭いおなら）で難事件を解決する児童書です。NHKでテレビ化され、映画化も予定されています。私も息子と一緒に楽しんでいますが、ふと、息子の語彙力や表現力が上がったのではと感ずることがありました。何事も興味を持って楽しんでいると、思わぬ効果が発揮されるものですね。

好奇心旺盛な息子に触発されながら、私も私なりに頑張っていきたいと考えております。皆様、今後ともご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

執筆者の皆さんにはお忙しい中、ご寄稿頂き、大変有難うございました。お蔭様で会誌64号も無事出稿の運びとなりました。

今年の冬もインフルエンザが猛威を振るい、累積患者数は1000万人を超えました。本号が発刊（2019年4月予定）される頃には落ち着いていると思いますが、皆さんはどのようなインフルエンザの予防対策をしていますか。予防注射の接種（OK）、入念な手洗い（OK）、十分なうがい（?）。ご存知の方も多いかと思いますが、残念ながら、『うがい』は数年前から厚労省のインフルエンザ予防対策の推奨項目から消えています。

インフルエンザウイルスはのどの粘膜に付着してから細胞内に侵入するまでに10分（一説には数分）～20分と言われており、少ない頻度のうがいでは予防対策として不十分です。一部の専門家の間では、予防対策としてこまめな水分補給が挙げられており、上記の付着・侵入を意識した頻度での水分補給が効果的と言われています。

実は私も20数年前から、この時期には1～1.5時間にコップ1杯程度の水分補給（5-10分おきに1口）を心掛けており、そのためか否かは分かりませんが、この間、一度もインフルエンザに罹患していません。

でも感染部位についてウイルスが体内に入ってしまうのでは？と心配される方もいるかもしれませんが、ウイルスは水分と一緒に胃に入って胃酸で分解されるため、感染・増殖することはありませんのでご心配なく。ご興味のある方は次のシーズンに試してみてください。プラセボ効果かもしれませんが。

最後に、本年4月でJAHISは設立25周年を迎えることができました。これもひとえに先輩諸氏、現会員の皆さんのご協力によるものです。JAHISの活動が会員各位の発展と社会に貢献し続けられるように、事務局として支援して参ります。よろしくお願い致します。

H.N

**一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第64号**

平成31年4月10日 発行

発行人：浅野 正治

編集委員会：編集人 谷口 浩一
委員 岩本 和則
委員 岡 明男
委員 木下 善貴
委員 鈴木 義規
委員 中村 斉
委員 平井 健二
委員 吉野 浩夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <http://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズアソシエイツ

